

【5】 具体的な地名のみで *janapada* が省略されている用例

[0] 以上の考察から、「コーサラ国を遊行する」という場合の「コーサラ国」は単数では表されずに一般的に複数形で表されるのは、「コーサラ人たちの住む諸々のジャナパダを遊行する」というように、ここには複数のジャナパダ（土地土地）が予想されていることが明らかになった。

そして以上に紹介したのは、「*Kosalesu janapadesu*」というように、地名あるいは部族名に「*janapada*」という言葉が添えられ、それらが「コーサラ人たちの住む土地土地」を表すと明瞭に判断されるケースであった。しかしながら原始仏教聖典にはたとえば経律の始まりの部分で、一般的な表現で言えば、「世尊がコーサラ国の何々村におられたときのこと」という場合や、世尊が「コーサラ国を遊行されて、コーサラ国の何々村に行かれた」というような場合の「コーサラ国」にあたる部分に、「*janapada*」という言葉が添えられずに、「*Kosalesu*」というような言葉のみで使われるケースも数多く見いだされる。

この場合の「コーサラ」も複数形であるから、ある一つの統治組織を有する「国家」が想定されているのではなく、「*janapada*」という語の複数形が省略されたものと解される。したがってこの場合の「*Kosalesu*」は「コーサラ国」と訳するのは適当ではなく、以下には「コーサラ人たちの住む〔諸ジャナパダ〕」と訳しておいたが、「コーサラ人たちの住む土地土地」とでも訳せばもっとも現実に合致するであろう。漢訳ではこれが「人間」にあたるわけである。

ともかく、このような用例を次に紹介する。ここでも複数形には実線の下線、単数形には破線の下線を付しておく。

[1] まず「十六大国」に含まれる国のケースを紹介する。ただし一つの文章中に、複数の地名あるいは部族名が含まれる場合があるので、それは別に紹介する。

[1-1] アンガ (*Āṅgānam*) 資料を紹介する。

[世尊は] アンガ人たちの住む〔諸ジャナパダのなかの〕アッサプラという名のアンガ人たちのニガマに住された (*Āṅgesu viharati Assapuraṃ nāma Āṅgānam nigamo*) 。
MN.039 Mahāssapura-s. (「馬邑大経」 vol. I p.271)

[世尊は] アンガ人たちの住む〔諸ジャナパダのなかの〕アーパナという名のアンガ人たちのニガマに住された (*Āṅgesu viharati Āpaṇaṃ nāma Āṅgānam nigamo*) 。
SN.048-050 (vol. V p.225)

[世尊は] アンガ人たちの住む〔諸ジャナパダ〕を遊行されて……チャンパー〔・ナガラ〕に到着された。まさに世尊はチャンパーのガッガラー・ポッカラニー岸辺に住された (*Āṅgesu cārikaṃ caramāno……yena Campā tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Campāyaṃ viharati Gaggarāya Pokkharaniyā tire*) 。
DN.004 Soṇadaṇḍa-s. (「種徳経」 vol. I p.111)

[1-2] マガダ (*Magadha*) 資料を紹介する。

[舎利弗は] マガダ人たちの住む〔諸ジャナパダのなかの〕ナーラカ・ガーマカに住した (*Magadhesu viharati Nālakagāmake*) 。
SN.038-001 (vol. IV p.251)

[世尊は] マガダ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] アンダカヴィンダ [・ガーマ] ⁽¹⁾ に住された (Magadhesu viharati Andhakavinde)。SN.006-002-003 (vol. I p.154)

[世尊は] マガダ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] パンチャサーラー婆羅門村に住された (Magadhesu viharati Pañcasālāyaṃ brahmaṇagāme)。SN.004-002-008 (vol. I p.113)

[世尊は] マガダ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ダッキナーギリのエーカーラー婆羅門村に住された (Magadhesu viharati Dakkhiṇāgirismiṃ Ekanālāyaṃ brahmaṇagāme)。SN.007-002-001 (vol. I p.172)

[世尊は] マガダ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] マートウラー [・ナガラ] ⁽²⁾ に住された (Magadhesu viharati Mātulāyaṃ)。DN.026 *Cakkavattisihanāda-s.* (「轉輪聖王師子吼經」 vol. III p.058)

[世尊は] マガダ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行されて、ラージャガハに到着された (Magadhesu cārikaṃ caramāno yena Rājagahaṃ tad avasari)。MN.140 *Dhātuvibhaṅga-s.* (「界分別經」 vol. III p.237)

[世尊は] マガダ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行されて……カーヌマタと名づけるマガダ人たちの婆羅門村に到着された。そこで世尊はカーヌマタ [婆羅門村] に住された (Magadhesu cārikaṃ caramāno……yena Khānumataṃ nāma Magadhānaṃ brāhmaṇa-gāmo tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Khānumate viharati Ambalaṭṭhikāyaṃ)。DN.005 *Kūṭadanta-s.* (「究羅壇頭經」 vol. I p.127)

[世尊は] マガダ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行されて……パータリ・ガーマに到着された (Magadhesu cārikaṃ caramāno……yena Pāṭaligāmo tad avasari)。Udāna008-006 (p.085)

[私、即ち世尊は] マガダ人たちの住む [諸ジャナパダ] を次々に遊行して、ウルヴェーラーのセナー・ニガマに到着した (Magadhesu anupubbena cārikaṃ caramāno yena Uruvelā Senānigamo tad avasariṃ) ⁽³⁾。MN.026 *Ariyapariyesana-s.* (「聖求經」 vol. I p.166)

- (1) アンダカヴィンダの規模を示す属性は、註釈書 *Sārattha-pakāsinī* (vol. I p.220) によれば、Andhakavindan ti evaṃnāmaka gāmaṃ とあって、その規模を示す属性はガーマ (gāma) とする。
- (2) 註釈書 *Sūmaṅgala-vilāsinī* (vol. III p.845) には、Mātulāyan ti evaṃnāmaka nagare. とあって、その規模を示す属性はナガラ (nagara) とする。
- (3) この文章は世尊自身が成道後に向った地を後に回想して語られたものである。

[1-3] カーシ (Kāsi) 資料を紹介する。

[世尊は] カーシ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行された……ときに世尊はカーシ人たちの住む [諸ジャナパダ] を次々に遊行して、キーターギリと名づけるカーシ人たちのニガマに到達された。そこで世尊はキーターギリというカーシ人たちのニガマに住された (Kāsīsu cārikaṃ carati……atha kho Bhagavā Kāsīsu anupubbena cārikaṃ caramāno yena Kīṭāgiri nāma Kāsīnaṃ nigamo tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Kīṭāgirismiṃ viharati Kāsīnaṃ nigame)。MN.070 *Kīṭāgiri-s.* (「枳咤山邑經」 vol.

I p.473)

[1-4] コーサラ (Kosala) 資料を紹介する。

[クマラー・カッサバは] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……セータヴィヤーと名づけるコーサラ人たちのナガラに到着した。そこでクマラー・カッサバはセータヴィヤーの北方にあるセータヴィヤーのシンサバー・ヴァナに住した (Kosalesu cārikaṃ caramāno … yena Setavyā nāma Kosalānaṃ nagaraṃ tad avasari. tatra sudaṃ āyasmā Kumāra-kassapo Setavyāyaṃ viharati uttarena Setavyā Siṃsapā-vane)。DN.023 *Pāyāsi-s.* (「弊宿経」 vol.II p.316)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……ケーサプッタと名づけるカーラーマ人たちのニガマに到着された (Kosalesu cārikaṃ caramāno … yena Kesaputtaṃ nāma Kālāmānaṃ nigamo tad avasari)。AN.003-007-065 (vol. I p.188)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……ダンドカッパカと名づけるコーサラ人たちのニガマに到着された (Kosalesu cārikaṃ caramāno … yena Daṇḍakappaṃ nāma Kosalānaṃ nigamo tad avasari)。AN.006-006-062 (vol.III p.402)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……ナラカパーナと名づけるコーサラ人たちのニガマに到着された。そこで世尊はナラカパーナのバラサ・ヴァナに住された (Kosalesu cārikaṃ caramāno … yena Naḷakapānaṃ nāma Kosalānaṃ nigamo tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Naḷakapāne viharati Palāsavane)。AN.010-007-067 (vol.V p.122)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……パンカダーと名づけるコーサラ人たちのニガマに到着された。そこで世尊はパンカダーに住された (Kosalesu cārikaṃ caramāno … yena Paṅkadhā nāma Kosalānaṃ nigamo tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Paṅkadhāyaṃ viharati)。AN.003-009-090 (vol. I p.236)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……イッチャーナンガラと名づけるコーサラ人たちの婆羅門村に到着された。そこで世尊はイッチャーナンガラのイッチャーナンガラ・ヴァナサンダに住された (Kosalesu cārikaṃ caramāno … yena Icchānaṅgalaṃ⁽¹⁾ nāma Kosalānaṃ brāhmaṇa-gāmo tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Icchānaṅkale viharati Icchānaṅkala-vanaśaṇḍe)。DN.003 *Ambaṭṭha-s.* (「阿摩晝経」 vol. I p.087)、AN.005-003-030 (vol.III p.030)、AN.006-004-042 (vol.III p.341)、AN.008-009-086 (vol.IV p.340)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……サーラヴァティカー [・ガーマ]⁽²⁾ に到達された (Kosalesu cārikaṃ caramāno … yena Sālavatikā tad avasari)。DN.012 *Lohicca-s.* (「露遮経」 vol. I p.224)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……マナサーカタと名づけるコーサラ人たちの婆羅門村に到着された。そこで世尊はマナサーカタのマナサーカタ北方を流れるアチラヴァティ河の辺にあるアンバ・ヴァナに住された (Kosalesu cārikaṃ caramāno … yena Manasākataṃ nāma Kosalānaṃ brāhmaṇa-gāmo tad

avasari. tatra sudam̐ Bhagavā Manasākaṭe viharati uttarena Manasākaṭassa Aciravatiyā nadiyā tīre amba-vane) 。 *DN.013 Tevijja-s.* (「三明経」 vol. I p.235)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……サーラーと名づけるコーサラ人たちの婆羅門村に到着された (Kosalesu cārikam̐ caramāno……yena Sālā nāma Kosalānam̐ brāhmaṇagāmo tad avasari) 。 *MN.041 Sāleyyaka-s.* (「薩羅村婆羅門経」 vol. I p.285) 、 *MN.060 Apaṇṇaka-s.* (「無戲論経」 vol. I p.400)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……オーパサーダと名づけるコーサラ人たちの婆羅門村に到着された。そこで世尊はオーパサーダのオーパサーダ北方に位置するデーヴァ・ヴァナ [あるいはまた] サーラ・ヴァナ⁽³⁾ [とも称される林] に住された (Kosalesu cārikam̐ caramāno……yena Opasādam̐ nāma Kosalānam̐ brāhmaṇagāmo tad avasari. tatra sudam̐ Bhagavā Opasāde viharati uttarena Opasādam̐ devavane sālavane) 。 *MN.095 Caṅkī-s.* (「商伽経」 vol. II p.164)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……ヴェールドウヴァーラと名づけるコーサラ人たちの婆羅門村に到着された (Kosalesu cārikam̐ caramāno……yena Veḷudvāram̐ nāma Kosalānam̐ brāhmaṇagāmo tad avasari) 。 *SN.055-007* (vol. V p.352)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……ヴェーナーガプラと名づけるコーサラ人たちの婆羅門村に到着された (Kosalesu cārikam̐ caramāno……yena Venāgapuram̐ nāma Kosalānam̐ brahmaṇagāmo tad avasari) 。 *AN.003-007-063* (vol. I p.180)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行し……ときに世尊はコーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を次々に遊行して、チャンダラカッパ [・ガーマ]⁽⁴⁾ に到着された。そこで世尊はチャンダラカッパのトーデッヤ婆羅門のアンバ・ヴァナに住された (Kosalesu cārikam̐ carati……atha kho Bhagavā Kosalesu anupubbena cārikam̐ caramāno Caṇḍalakappam̐ tad avasari. tatra sudam̐ Bhagavā Caṇḍalakappe viharati Todeyyānam̐ brāhmaṇānam̐ ambavane) 。 *MN.100 Saṅgārava-s.* (「傷歌邏経」 vol. II p.209)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して、カピラヴァットゥに到達された (Kosalesu cārikam̐ caramāno yena Kapilavatthu tad avasari) 。 *AN.003-013-124* (vol. I p.276)

[世尊は] コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行し……ナーランダーに到着された。そこで世尊はナーランダーのパーヴァーリカのアンバ・ヴァナ⁽⁵⁾ に住された (Kosalesu cārikam̐ caramāno……yena Nālandā tad avasāri. tatra sudam̐ Bhagavā Nālandāyam̐ viharati Pāvārikambavane) 。 *SN.042-009* (vol. IV p.322)

(1) PTS テキストには *Ichhānaṅkalam̐* と校訂するが、同テキストの脚注により訂正。

(2) 註釈書 *Sumaṅgala-vilāsini* (vol. II p.395) には *Sālavatikā ti tassa gāmassa nāmam̐* とある。

(3) 註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol. III p.414) には、「‘デーヴァ・ヴァナ、サーラ・ヴァナ’とは、そこで神々たちの供犠祭が執り行われる。それ故にそれ [即ち、ヴァナ] は、デーヴァ・ヴァナとも、サーラ・ヴァナとも呼ばれる (*devavane sālavane ti tasmim̐ kira devatānam̐*

balikammaṃ kariyati, tena taṃ devavanan ti pi sālavanan ti pi vuccati)」とあり、同じ林 (vana) を指していることになる。

- (4) ナーランダー版ならびに *Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版には Cañcalikappa と校訂する。なお註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol.III p.451) には Cañcalikappe ti evaṃnāmake gāme とあって、その規模を示す属性を「村 (gāma)」とする。
- (5) 註釈書 *Sumaṅgala-vilāsīnī* (vol.II p.388) によると、「‘パーヴァーリカのアンバ・ヴァナに’ とは、パーヴァーリカの所有するマンゴー樹林に、である (Pāvārikambavane ti Pāvārikassa ambavane)」とある。また同上註釈書 (vol.III p.873) ほか、*Papañca-sūdanī* (vol.III p.052)、*Sārattha-pakāsīnī* (vol.III p.208) には「‘パーヴァーリカのアンバ・ヴァナに’ とは、ドゥッサーパーヴァーリカ長者の所有するマンゴー樹林に、である (Pāvārikambavane ti Dussapāvārika-seṭṭhino ambavane)」ともある。なおドゥッサーパーヴァーリカ長者については *Dictionary of Pāli Proper Names*. (vol.II p.1100) を参照。

[1-5] ヴァッジ (Vajji) 資料を紹介する。

[世尊は] ヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ウッカチェーラー [・ナガラ] ⁽¹⁾ のガンガー河の岸辺に住された (Vajjisu viharati Ukkacelāyaṃ Gaṅgāya nadiyā tīre)。MN.034 *Cūḷagopālaka-s.* (「牧牛者小経」 vol. I p.225)

[世尊は] ヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ハッティ・ガーマに住された (Vajjisu viharati Hatthigāme)。SN.035-125 (vol.IV p.109)

[世尊は] ヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] コーティ・ガーマに住された (Vajjisu ⁽²⁾ viharati Koṭṭigāme)。SN.056-021 (vol.V p.431)

[世尊は] ヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] バンダ・ガーマに住された (Vajjisu viharati Bhaṇḍagāme)。AN.004-001-001 (vol.II p.001)

[カーカンドカの子であるヤサ比丘は] ヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して、ヴェーサーリーに到達した。そこでカーカンドカの子ヤサはヴェーサーリーのマハーヴァナ内にあるクーターガーラサーラー (重閣講堂) に住した (Vajjisu cārikam caramānā yena Vesāli tad avasari. tatra sudam āyasmā Yaso Kākaṇḍakaputto Vesāliyaṃ viharati Mahāvane Kūṭāgārasālāyaṃ)。Vinaya 「七百鍵度」 (vol. II p.294)

(1) 註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol.II p.265) によれば、Ukkacelāyan ti evaṃnāmake nagare とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara)」である。

(2) PTS テキストには Vajjisu と校訂するも、ナーランダー版ならびに *Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版により訂正。

[1-6] マッラ (Malla) 資料を紹介する。

[世尊は] マッラ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ウルヴェーラカッパと名づけるマッラ人たちのニガマに住された (Mallesu ⁽¹⁾ viharati Uruvelakappaṃ nāma Mallānaṃ ⁽²⁾ nigamo)。SN.042-011 (vol.IV p.327)

[世尊は] マッラ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] アヌピヤーと名づけるマッラ人たちのニガマに住された (Mallesu viharati Anupiyaṃ nāma Mallānaṃ nigamo)。DN.024 *Pātika-s.* (「波梨経」 vol.III p.001)

[世尊は] マッラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……パーヴァーと名づけるマッラ人たちのナガラに到達された。そこで世尊はパーヴァーのチュンダという鍛冶

師の子が所有するアンバ・ヴァナに住された (Mallesu cārikaṃ caramāno……yena Pāvā nāma Mallānaṃ nagaraṃ tad avasari. tatra sudamaṃ Bhagavā Pāvāyaṃ viharati Cundassa kammāra-puttassa amba-vane) 。 *DN.033 Saṅgīti-s.* (「等誦経」 vol. III p.207) 、 *Udāna008-005* (p.081) (3)

[世尊は] マッラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……トゥーナと名づけるマッラ人たちの婆羅門村に到達された (Mallesu cārikaṃ caramāno……yena Thūnaṃ nāma Mallānaṃ brāhmaṇagāmo tad avasari) 。 *Udāna007-009* (p.078)

- (1) PTS テキストには Malatesu と校訂するが、同テキストの脚注により訂正。なお註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol. III p.108) にも Mallesū ti evaṃnāmake janapade とある。
- (2) PTS テキストには Malatānaṃ と校訂するが、PTS テキストの脚注により訂正。
- (3) 但し、『ウダーナ』には「パーヴァーに到着された (yena Pāvā tad avasari) 」とあって、「マッラ人たちのナガラに (nāma Mallānaṃ nagaraṃ) 」という一文を欠く。

[1-7] チェーティ (Ceti) 資料を紹介する。

[多数の長老比丘たちは] チェーティ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] サハンチャニカ [・ナガラ] (1) に住した (Cetesu viharanti Sahañcanike) 。 *SN.056-030* (vol. V p.436)

[マハーチュンダ (Mahācunda) 比丘は] チェーティ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] サハジャーティー [・ニガマ] (2) に住した (Cetisu viharati Sahajātiyaṃ) 。 *AN.006-005-046* (vol. III p.355)

[アヌルッダ (Anuruddha) 比丘が] チェーティ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] パーチャーナヴァンサダーヤに住していた (Cetisu viharati Pācīnavamsadāye (3)) 。 *AN.008-003-030* (vol. IV p.228)

[世尊は] チェーティヤ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行してバツダヴァティカーに向けて出発された。……ときに世尊は次々に遊行してバツダヴァティカー [・ガーマあるいはニガマ] (4) に到達された (Cetiyesu cārikaṃ caramāno yena Bhaddavatikā tena pāyāsi. …… *atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Bhaddavatikā tad avasari*) 。 *Vinaya* 「波逸提 051」 (vol. IV p.108)

- (1) 註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol. III p.299) によると *Sahañcanike ti Sahañcaniya-nagare* とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara) 」である。
- (2) 註釈書 *Manoratha-pūraṇi* (vol. III p.379) では *Sayaṃjātiyan ti evaṃnāmake nigame* とあって、その規模を示す属性は「ニガマ (nigama) 」とする。
- (3) PTS テキストの脚注に *Pācīnavamsamigādāye* ともある。
- (4) 註釈書 *Samanta-pāsādikā* (vol. IV p.859) には *Bhaddavatikā ti eko gāmo* とあり、また *Jātaka 081* (vol. I p.360) には *Bhaddavatikaṃ nāma nigamaṃ* とあって、その規模を示す属性は「ガーマ (gāma) 」あるいは「ニガマ (nigama) 」とある。

[1-8] クル (Kuru) 資料を紹介する。

[世尊は] クル人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] カンマーサダンマと名づけるクル人たちのニガマに住された (Kurūsu viharati Kammāsadhammaṃ nāma Kurūnaṃ nigamo) 。 *DN.015 Mahānidāna-s.* (「大縁経」 vol. II p.055)

[世尊は] クル人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……トゥッラコッティタと名づけるクル人たちのニガマに到達された (Kurūsu cārikaṃ caramāno……yena Thul-

lakoṭṭhitam nāma Kurūnam nigamo tad avasari) 。 *MN.082 Raṭṭhapāla-s.* (「頼吒
 毘羅經」 vol. II p.054)

[1-9] アヴァンティ (Avanti) 資料を紹介する。

[マハーカッチャーナ (Mahākaccāna) 比丘は] アヴァンティ人たちの住む [諸ジャ
 ナパダのなかの] クララガラ [・ナガラ] ⁽¹⁾ のパヴァッタ山に住した (Avantīsu vi-
harati Kuraraghare Pavatte pabbate) 。 *SN.022-003* (vol. III p.009) 、 *Udāna005-*
006 (p.057) 、 *Vinaya* 「皮革鞣度」 (vol. I p.194) ⁽²⁾

[マハーカッチャーナ比丘は] アヴァンティ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの]
 マッカラカタ [・ナガラ] ⁽³⁾ のアランニヤにある小屋に住した (Avantīsu viharati
Makkarakāṭe araṇṇakuṭikāyaṃ ⁽⁴⁾) 。 *SN.035-132* (vol. IV p.116)

- (1) 註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol. II p.258) 、 *Udāna-aṭṭhakathā* (p.307) 、 *Sumaṅgala-vi-*
lāsini (vol. V p.1087) には Kuraraghare ti evaṃnāmake nagare とあって、その規模を示
 す属性は「ナガラ (nagara) 」とする。
- (2) ただしパーリの律蔵には「パヴァッタ山 (Pavatta pabbata) 」は「パパータ山 (Papāta pa-
 bbata) 」とある。なお *Sumaṅgala-vilāsini* (vol. V p.1087) では「‘パバタカ山に’ とは、
 パバタと名づける山に、である (Papatake pabbate ti Papatanāmake pabbate) 」とある。
 また *Udāna-aṭṭhakathā* (p.307) には「‘パヴァッタ山に’ とは、パヴァッタと名づける山
 に、である。人々は『パパータ山に』とも読む (Pavatte pabbate ti Pavattanāmake
 pabbate. "Papāte pabbate" ti pi paṭhanti) 」とある。
- (3) 註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol. II p.397) には Makkarakate ti evaṃnāmake nagare とあ
 っ
 て、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara) 」とする。
- (4) PTS テキストには araṇṇe kuṭikāyaṃ とあるが、同テキストの脚注により訂正。なお本文中
 にも araṇṇakuṭikā とある。

[2] 次に「十六大国」に入らない地名の用例を紹介する。これにも上記と同じような複
 数表現が見られるので、前節において「大国」であるがゆえに複数のジャナパダを含み、そ
 こで複数形で表現されると結論したのとは矛盾するわけである。

[2-1] アングッタラーパ (Aṅguttarāpa) 資料を紹介する。

[世尊は] アングッタラーパ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] アーパナと名づ
 けるアングッタラーパ人たちのニガマに住された (Aṅguttarāpesu viharati Āpaṇam
nāma Aṅguttarāpānam nigamo) 。 *MN.054 Potaliya-s.* (「哺多利經」 vol. I p.359)

[世尊は] アングッタラーパ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……アーパナ
 と名づけるアングッタラーパ人たちのニガマに到達された (Aṅguttarāpesu cārikaṅ
caramāno……yena Āpaṇam nāma Aṅguttarāpānam nigamo etad avasari) 。 *Suttani-*
pāta 003-007 (p.102) 、 *MN.092 Sela-s.* (「施羅經」 vol. II p.146)

[2-2] サッカ (Sakka) 資料を紹介する。

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] カピラヴァットのマハーヴァ
 ナに住された (Sakkesu viharati Kapilavatthusmiṃ Mahāvane) 。 *DN.020 Mahāsa-*
maya-s. (「大會經」 vol. II p.253)

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] カピラヴァットのニグロー
 ダ・アラーマに住された (Sakkesu viharati Kapilavatthusmiṃ Nigrodhārāme) 。

MN.014 Cūladukkhakkhandha-s. (「苦蘊小經」 vol. I p.091)

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] サーマ・ガーマに住された (*Sakkesu viharati Sāmagāme*)。 *MN.104 Sāmagāma-s.* (「舎彌村經」 vol. II p.243)

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] サーマ・ガーマカのポッカラニヤーに住された (*Sakkesu viharati Sāmagāmake Pokkharañiyāyaṃ*)。 *AN.006-003-021* (vol. III p.309)

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] シラーヴァティーに住された (*Sakkesu viharati Silāvatiyaṃ*)。 *SN.004-003-001* (vol. I p.117)

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] デーヴァダハと名づけるサキヤ人たちのニガマに住された (*Sakkesu viharati Devadahaṃ nāma Sakyānaṃ nigamo*)。 *MN.101 Devadaha-s.* (「天臂品經」 vol. II p.214)

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] コーマドゥッサと名づけるサキヤ人たちのニガマに住された (*Sakkesu viharati Khomadussaṃ nāmaṃ Sakyānaṃ nigamo*)。 *SN.007-002-012* (vol. I p.184)

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] メーダルンパと名づけるサキヤ人たちのニガマに住された (*Sakkesu viharati Medaḷumpam nāma Sakyānaṃ nigamo*)。 *MN.089 Dhammacetiya-s.* (「法莊嚴經」 vol. II p.118)

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ナガラカと名づけるサキヤ人たちのニガマに住された (*Sakkesu viharati Nagarakaṃ nāma Sakyānaṃ nigamo*)。 *SN.045-002* (vol. V p.002)

[世尊は] サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ヴェーダンニヤと名づけるサキヤ人たちがいて、そのアンバ・ヴァナ内の重閣に住された (*Sakkesu viharati Vedhaññā nāma Sakyā tesam Ambavane pāsāde*)。 *DN.029 Pāsādika-s.* (「清淨經」 vol. III p.117)

[2-3] バグガ (Bhagga) ⁽¹⁾ 資料を紹介する。

[目連は] バグガ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] スンスマーラギラのベーサカラー・ヴァナのミガダーヤに住していた (*Bhaggesu viharati Sumsumāragire Bhesakaḷāvane Migadāye*)。 *MN.050 Māratajjaniya-s.* (「魔訶責經」 vol. I p.332)

[世尊は] バグガ人たちの住む [諸ジャナパダ] に随意の間住された後、サーヴァッティーに向けて遊行に出られた。次々に遊行してサーヴァッティーに到着された。そこで世尊はサーヴァッティーのジェータ・ヴァナのアーナータピンディカ・アーラーマに住された (*Bhaggesu yathābhirantaṃ viharitvā yena Sāvatti tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Sāvatti tad avasari. tatra sudam Bhagavā Sāvattiyaṃ viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme*)。 *Vinaya* 「小事毘度」 (vol. II p.129)

[世尊は] ヴェーサーリーに随意の間住された後、バグガ人たちの住む [諸ジャナパダ] に向けて遊行に出られた。次々に遊行してバグガ人たちの住む [諸ジャナパダ] に到着された。そこで世尊はバグガ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] スンスマーラ

ギラのベーサカラー・ヴァナのミガダーヤに住された (*Vesāliyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Bhaggā tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikañ caramāno yena Bhaggā tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Bhaggesu viharati Suṃsumāragire Bhesakaḷāvane migadāye*)。 *Vinaya* 「小事毘度」 (vol. II p.127)

- (1) マララセーケーラ氏は *Bhaggā* で項目を立てる。 *Dictionary of Pāli Proper Names*. (vol. II p.345) を参照。バग्ガはヴァンサ (*Vaṃsa, Vatsa*) に従属していたとされている。水野弘元「初期仏教の印度に於ける流通分布に就いて」 p.035 ならびに中村元『インド史 I』 (「中村元選集 [決定版]」第5巻) p.389 を参照。

[2-4] コーリヤ (*Koliya*) 資料を紹介する。

[世尊は] コーリヤ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ハリッダヴァサナと名づけるコーリヤ人たちのニガマに住された (*Koliyesu viharati Haliddavasanaṃ nāma Koliyānaṃ nigamo*)。 *MN.057 Kukkuravatika-s*. (「狗行者経」 vol. I p.387)

[世尊は] コーリヤ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] カッカラパッタと名づけるコーリヤ人たちのニガマに住された (*Koliyesu viharati Kakkarapattaṃ nāma Koliyānaṃ nigamo*)。 *AN.008-006-054* (vol. IV p.281)

[世尊は] コーリヤ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] サッジャネーラと名づけるコーリヤ人たちのニガマに住された (*Koliyesu viharati Sajjanelaṃ* ⁽¹⁾ *nāma Koliyānaṃ nigamo*)。 *AN.004-006-057* (vol. II p.062)

[阿難は] コーリヤ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] サープーガ ⁽²⁾ と名づけるコーリヤ人たちのニガマに住した (*Koliyesu viharati Sāpūgannāma Koliyānaṃ nigamo*)。 *AN.004-020-194* (vol. II p.194)

[世尊は] コーリヤ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ウッタラと名づけるコーリヤ人たちのニガマに住された (*Koliyesu viharati Uttaraṃ nāma Koliyānaṃ nigamo*)。 *SN.042-013* (vol. IV p.340)

- (1) ナーランダー版ならびに *Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版は *Pajjanikaṃ* と校訂する。PTS テキスト脚注にも *Pajjanikaṃ* とある。なお註釈書 *Manoratha-pūraṇi* (vol. III p.096) には *Pajjanikaṃ ti tassa nigamassa nāmaṃ* とある。

- (2) ナーランダー版ならびに *Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版は *Sāmugaṃ* と校訂する。PTS テキスト脚注に *Sāmugiyāṃ* ともある。なお註釈書 *Manoratha-pūraṇi* (vol. III p.173) には *Sāmugiyā ti Sāmuga-nigama-vāsino* とある。

[2-5] スンバ (*Sumbha*) ⁽¹⁾ 資料を紹介する。

[世尊は] スンバ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] セータカと名づけるスンバ人たちのニガマに住された (*Sumbhesu viharati Setakaṃ nāma Sumbhānaṃ nigamo*)。 *SN.046-030* (vol. V p.089)

- (1) 水野博士によれば *Sumbha* は *Suhma* に当るかも知れないとされた上で、この *Suhma* はガンジス河の河口地方か、またはそれ以南にわたる東インドに位置すると推定されている。「初期仏教の印度に於ける流通分布に就いて」 pp.008~009

[2-6] ヴィデーハ (*Videha*) 資料を紹介する。

[世尊は] ヴィデーハ人たちの住む [諸ジャナパダ] を遊行して……。ときに世尊はヴィデーハ人たちの住む [諸ジャナパダ] を次々に遊行してミティラーに到達された。そこで世尊はミティラー ⁽¹⁾ のマハーデーヴァのアンバ・ヴァナに住された (*Videhesu*

cārikam carati……atha kho Bhagavā Videhesu anupubbena cārikam caramāno yena Mithilā tad avasari. tatra sudam Bhagavā Mithilāyaṃ viharati Makhādevambavane.)。

MN.091 Brahmāyu-s. (「梵摩經」 vol. II p.133~p.140)

- (1) *Cariyā-piṭaka* の註釈書には、「‘ミティラーの最上のプラに’とは、ミティラーと名づけるヴィデーハ人たちの最上のナガラに、である (*Mithilāyaṃ puruttame ti Mithilānāmake Videhānaṃ uttamanagare*) (p.051)とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (*nagara*)」とし、ヴィデーハの首都 (*puruttama*) とする。

[3] 次に一つの文章の中に複数の地名あるいは部族名が含まれる用例を紹介する。

カリンガ人たちの住むダントプラとアッサカ人たちの住むポータナ (*Dantapuraṃ Kalīṅgānaṃ* ⁽¹⁾ *Assakānaṃ ca Potanaṃ*)、アヴァンティ人たちの住むマーヒッサティーとソーヴィーラ人たちの住むロールカ (*Māhissatī Avantiṇaṃ Sovirānaṃ ca Rorukaṃ*)、ヴィデーハ人たちの住むミティラーとアンガ人たちの住むチャンパー (*Mithilā ca Videhānaṃ Campā Aṅgesu* ⁽²⁾)、そしてカーシ人たちの住むバーラーナシー (*Bārāṇasī ca Kāsīnaṃ*) を、ゴーヴィンダが建設した、と。 *DN.019 Mahāgovinda-s.* (「大典尊經」 vol. II p.235)

[イシダッタ (*Isidatta*) とプラーナ (*Purāṇa*) という2人の大工が舎衛城近くのサードゥカ (*Sādhuka*) 村で出迎えた世尊に] 私たちは「世尊がサーヴァッティーよりコーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] に遊行に出られるだろう (*Sāvattihyā Kosalesu cārikam pakkamissati*)」と聞くとき、……「コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] よりマッラ人たちの住む [諸ジャナパダ] に遊行に出られるだろう (*Kosalehi Malle* ⁽³⁾ *cārikam pakkamissati*)」と聞くとき、……「マッラ人たちの住む [諸ジャナパダ] よりヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダ] に遊行に出られるだろう (*Mallehi Vajjīm* ⁽⁴⁾ *cārikam pakkamissati*)」と聞くとき、……「ヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダ] よりカーシ人たちの住む [諸ジャナパダ] に遊行に出られるだろう (*Vajjīhi Kāsīm* ⁽⁵⁾ *cārikam pakkamissati*)」と聞くとき、……「カーシ人たちの住む [諸ジャナパダ] よりマガダ人たちの住む [諸ジャナパダ] に遊行に出られるだろう (*Kāsīhi Magadhe* ⁽⁶⁾ *cārikam pakkamissati*)」と聞くとき、そのとき‘世尊が私たちから遠ざかられた’と [思っ]、私たちには喜びなく、憂いがある。

私たちは「世尊がマガダ人たちの住む [諸ジャナパダ] よりカーシ人たちの住む [諸ジャナパダ] に遊行に出られるだろう (*Māgadhehi Kāsīm* ⁽⁷⁾ *cārikam pakkamissati*)」と聞くとき、……「カーシ人たちの住む [諸ジャナパダ] よりヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダ] に (*Kāsīhi Vajjī* ⁽⁸⁾)」、……「ヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダ] よりマッラ人たちの住む [諸ジャナパダ] に (*Vajjīhi Malle* ⁽⁹⁾)」、……「マッラ人たちの住む [諸ジャナパダ] よりコーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] に (*Mallehi Kosale*)」、……「コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] よりサーヴァッティーに遊行に出られるだろう (*Kosalehi Sāvattihim cārikam pakkamissati*)」と聞くとき、そのとき‘世尊が私たちに近づかれた’と [思っ]、私たちには喜びあり、満足である。 *SN.055-006* (vol. V p.349) ⁽¹⁰⁾

[私、即ちバッドー (*Bhaddā*) 比丘尼は] アンガ人たちの住む [諸ジャナパダ]、

マガダ人たちの住む [諸ジャナパダ]、ヴァッジ人たちの住む [諸ジャナパダ]、カーシ人たちの住む [諸ジャナパダ]、コーサラ人たちの住む [諸ジャナパダ] を往来した (*ciṇṇā Aṅgā ca Magadhā Vajji Kāsi ca Kosalā*)。 *Therīgāthā* v.110 (p.134)

- (1) PTS テキストは *Kāliṅgānam* とするが、同脚注により訂正。
- (2) アンガのみ *Aṅgesu* と処格になっているが、その理由は不明である。
- (3) ナーランダー版ならびに *Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版では *Mallesu* と校訂。
- (4) 同上、*Vajjisu* と校訂。
- (5) 同上、*Kāsisu* と校訂。
- (6) 同上、*Māgadhe* と校訂。なお同版では遊行先のマガダとコーサラは複数形の業格で校訂されている。
- (7) 同上、*Kāsisu* と校訂。
- (8) 同上、*Vajjisu* と校訂。
- (9) 同上、*Mallesu* と校訂。
- (10) 相応する漢訳の『雑阿含』860 (大正 02 p.218 下) では「梨師達多及富蘭那。稽首佛足。退坐一面白佛言。世尊。我今四體支解。四方易韻。所憶念事。今悉迷忘。何時當復得見世尊及諸知識比丘。世尊今出。至拘薩羅。從拘薩羅至伽尸。從伽尸至摩羅。從摩羅至摩竭陀。從摩竭陀至殃伽。從殃伽至修摩。從修摩至分陀羅。從分陀羅至迦陵伽。是故我今極生憂苦」とあって、拘薩羅 (Kosala) → 伽尸 (Kāsi) → 摩羅 (Malla) → 摩竭陀 (Magadha) というヴァッジ (Vajji) を除く遊行ルートに加え、さらにパーリ文とは異なる殃伽 (Aṅga) → 修摩 (Suhma) → 分陀羅 (Puṇḍra) → 迦陵伽 (Kaliṅga) という遊行ルートを伝える。

[4] 以上がジャナパダという言葉をとともわずに、地名ないし部族名が単独に用いられる用例である。

[4-1] このうち「十六大国」に含まれる地名ないし部族名は、アンガ、マガダ、カーシ、コーサラ、ヴァッジ、マツラ、チエーティ、クル、アヴァンティである。これらはいずれも複数形で表されている。

[4-2] 「十六大国」以外の地名ないし部族名は、アングッタラーパ、サッカ、バग्ガ、コーリヤ、スンバ、ヴィデーハ、カリンガ、アッサカ、ソーヴィーラである。この中にはあまりはっきりしない地名も含まれるが、サッカ (釈迦) などのように多くは一般的には「国」と認識されているところである。そしてこれらは前節の考察に基づいていけば「普通の国」であって、「*janapada*」とともに合成語ないしは関連して表現されるときには単数形で表れていたのであるが、ここではいずれも複数形で表されている。

おそらくこれは例外なく、「アングッタラーパ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] アーパナ」「サッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] カピラヴァットゥ」「クル人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] カンマーサダンマ」「アヴァンティ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] クララガラ」「バग्ガ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] スンスマーラギラ」「コーリヤ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ハリッダヴァナサ」「スンバ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] セータカ」「ヴィデーハ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ミティラー」「カリンガ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ダンタプラ」「アッサカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ポータナ」「ソーヴィーラ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] ロールカ」のように、アングッタラーパ国やサッカ国のなかのある限定さ

れた地名を表す構文として使われているからであろう。

先に「普通の国」も、この中には複数の地域、すなわち複数のナガラやニガマやガーマを含むと述べたことがここに現れているわけである。だからこそアングッタラーパやサッカなども「国」と呼ぶに足る資格を有するのであるが、しかし「大国」とは認識されていなかったということが、前節からの今節を含めた考察から推測される。

したがってわれわれの「仏在処・説処一覧」では、資料集が多ければ、これらも独立した「国」と認定してよいということになるであろう。

[5] ところが、同じような形式でアーラヴィー (1) のみは次のように単数形で示される。

〔ヴァンギーサ (Vaṅgīsa) 比丘は〕アーラヴィー人の住む〔ジャナパダのなかの〕アッガーラヴァ・チェーティヤに住していた (*Ālavīyaṃ viharati Aggālave cetiye*)。SN.008-001 (vol. I p.185)

〔世尊は〕アーラヴィー人の住む〔ジャナパダのなかの〕アーラヴァカ・ヤッカの住処に住された (*Ālavīyaṃ viharati Ālavakassa Yakkhassa bhavane*)。SN.010-012 (vol. I p.213)

〔世尊は〕アーラヴィー人の住む〔ジャナパダのなかの〕牛が歩む路上 (2) のシンサパー・ヴァナの葉座に住された (*Ālavīyaṃ viharati gomagge Siṃsapāvane paṇṇasanthare*)。AN.003-004-034 (vol. I p.136)

〔世尊は〕キターギリに随意の間住された後、アーラヴィー人の住む〔ジャナパダ〕に向けて出発された。次々に遊行してアーラヴィー人の住む〔ジャナパダ〕に到着された。そこで世尊はアーラヴィー人の住む〔ジャナパダのなかの〕アッガーラヴァ・チェーティヤに住された (*Kiṭṭāgirisimhiṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Ālavī tena cārikaṃ pakkāmi, anupubbena cārikaṃ caramāno yena Ālavī tad avasari. tatra sudam Bhagavā Ālavīyaṃ viharati Aggālave catiye*)。Vinaya「臥座具韃度」(vol. II p.172)

これが何を意味するのかよくわからないが、以下に紹介するように同様の構文でありながら、都市などは単数形で示されるから、アーラヴィーは都市として認識されているのであろう (3)。

- (1) アーラヴィーの所在は岩井昌悟「【論文5】原始仏教聖典に記された釈尊の雨安居地と後世の雨安居地伝承」(本「モノグラフ」【個別研究篇II】第6号) p.126以降ならびに森章司・本澤綱夫「【論文4】由旬 (*yojana*) の再検証」(同号) p.039の註(6)を参照。
- (2) 註釈書 *Manoratha-pūraṇī* (vol. II p.224) には「‘牛道に’とは、牛群の歩行道に、である (*gomagge ti gunnaṃ gamanamagge*)」とある。
- (3) 因に註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol. I p.316) では *Ālavī ti taṃ raṭṭham pi nagaram pi* と、あるいは *Suttanipāta-aṭṭhakathā* (vol. I p.217) では *Ālavī ti taṃ raṭṭham pi nagaram pi vuccati* とあって、アーラヴィーがラッタでも、ナガラでもであると註釈している。

[6] なお上記で紹介したと同様の構文で、「国」の部分に「都市」などがあてられるものもある。しかしこれはすべて単数形である。これには大まかに、世尊がどこそこに留められたという「滞在型」の文章と、どこそこからどこそこへ遊行されたという「遊行型」の文章がある。なおこのほかにも遊行地の道中での仏在処・説処などもあるが、ここでは煩を避けて除外してある (1)。また同様の理由で複数ある用例でも、註にはいちいち示さず、無作

為に代表させていることをお断りしておく。

なお滞在型の文章は国別にしたが、もとの文章に国名が指示されているわけではなく、これは筆者の判断によるものである。また遊行型の文章がどこからどこへの遊行したかによって分類している。これらは直接ジャナパダの調査には関係がないが、これら地域を表す地名が単数で用いられていることを確認するためと、釈尊当時の交通路を知るための一助になりうると考えるからである。

- (1) 例えば、*MN.081 Ghaṭṭikāra-s.* (「陶師経」 vol. II p.045) には *Bhagavā Kosalesu cārikaṃ carati mahatā bhikkhu-saṃghena saddhiṃ. atha kho Bhagavā maggā okkamma aññatarasmim padese sitaṃ pātvākāsi.* とあったり、往復する構文として例えば *Vinaya* 「布薩鞦韆度」 (vol. I p.115) には、*Rājagahe yathābhirantaṃ viharitvā yena Codanāvattu tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Codanāvattu tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Codanāvattusmim viharati. … … Codanāvattusmim yathābhirantaṃ viharitvā punad eva Rājagahaṃ paccāgacchi.* などがある。

[7] まず滞在型の資料を紹介する。

[7-1] アンガ (Aṅga)

[世尊は] チャンパー (瞻婆城) のガッガラーの蓮池の辺に住された (*Campāyam viharati Gaggarāya pokkharāṇiyā tīre*)。 *DN.034 Dasuttara-s.* (「十上経」 vol. III p.272)

[世尊は] バッディヤのジャーティヤー・ヴァナに住された (*Bhaddiye viharati Jātīyāvane*)。 *AN.005-004-033* (vol. III p.036)

[7-2] マガダ (Magadha)

[世尊は] ラージャガハ (王舎城) のヴェール・ヴァナ (竹林園) のカラダカ・ニヴァーパに住された (*Rājagahe viharati Veḷu-vane Kalandaka-nivāpe*)。 *DN.031 Singālovāda-s.* (「教授尸伽羅越経」 vol. III p.180)

[世尊は] ラージャガハのギッジャクータ山 (耆闍崛山、靈鷲山) に住された (*Rājagahe viharati Gijjhakūṭe pabbate*)。 *DN.025 Udumbarikasihanāda-s.* (「優曇婆羅師子吼経」 vol. III p.036)

[世尊は] ウルヴェーラーのネーランジャラー河の辺りにあるアジャパーラ・ニグローダ樹下に住された (*Urūvelāyam viharati najjā Nerañjarāya tīre Ajapālanigrodhamūle*)。 *SN.004-001-001* (vol. I p.103)

[世尊は] ガヤー [・ガーマ近郊にある] ガヤーシーサ [山] ⁽¹⁾ に住された (*Gāyāyam viharati Gayāsīse*)。 *Udāna001-009* (p.006)、*SN.035-028* (vol. IV p.019)、*AN.008-007-064* (vol. IV p.302)

[世尊は] ナーランダ ⁽²⁾ のパーヴァーリカのアンバ・ヴァナ ⁽³⁾ に住された (*Nālandāyam viharati Pāvārikambavane*)。 *DN.011 Kevaṭṭa-s.* (「堅固経」 vol. I p.211)、*MN.056 Upāli-s.* (「優波離経」 vol. I p.371)、*SN.047-012* (vol. V p.159)

- (1) *Udāna-aṭṭhakathā* (p.074) には「‘ガヤーシーサに’とは、そこに象の頭に等しき山頂を有するガヤーシーサと名づけられた1つの山がある (*Gayāsīse ti gajasīsasadisāsikharo*)

tattha eko pabbato Gayāsīsanāmako)」とある。また、註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol. II p.359) には「‘ガヤーシーサに’とは、ガヤー村の近くにガヤーという1つの池も河もあった。ガヤーシーサと名づけられた [山] は、象の面瘤のような岩の頂きもあって、そこには1千人の比丘たちの [滞在] 場所が確保できる所もあって、そこに世尊は住された (Gayāsise ti Gayāgāmassa hi avidūre Gayā ti ekā pokkharāṇi pi atthi nadī pi, Gayāsīsanāmako hatthikumbhasadiso piṭṭhipāsāṇo pi, yattha bhikkhusahassassa pi okāso pahoti, Bhagavā tattha viharati)」とある。

- (2) 註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol. III p.052)、*Sumaṅgala-vilāsini* (vol. III p.873)、*Sārattha-pakāsini* (vol. III p.207) には「‘ナーランダールに’とは、ナーランダールというそのような名称の城に、である。その城は [施者の] 実り豊かな村落となって、である (Nālandāyan ti Nālandā ti evaṃnāmake nagare, taṃ nagaraṃ gocaraḡāmaṃ katvā)」とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara)」である。
- (3) 本論文【5】 [1] [1-4] p.126 の註 (5) を参照。

[7-3] カーシ (Kāsi)

[世尊は] バーラーナシー (波羅奈城) のイシパタナ (仙人住处) のミガダーヤ (鹿野苑) に住された (Bārānaṣiyam viharati Isipatane migadāye)。MN.141 *Saccavi-bhaṅga-s.* (「諦分別経」 vol. III p.248)

[ウデーナ (Udena) 比丘は] バーラーナシーのケーミヤのアンバ・ヴァナに住した (Bārānaṣiyam viharati Khemiyambavane)。MN.094 *Ghoṭamukha-s.* (「瞿哆牟伽経」 vol. II p.157)

[多数の長老比丘たちは] マッチカーサンダのアンバタカ・ヴァナ ⁽¹⁾ に住した (Macchikāsaṇḍe viharanti Ambaṭakavane)。SN.041-001 (vol. IV p.281)

- (1) 註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol. III p.091) には「‘マッチカーサンダに [即ち、マッチカーサンダのアンバタカ・ヴァナ]’とは、そのように名づけられた [マッチカーサンダの] 森林に、である (Macchikāsaṇḍe ti evaṃnāmake vanasaṇḍe)」とあって、アンバタカ・ヴァナが「森林 (vanasaṇḍa)」であるとする。なお復註 *Sāratthadīpani-ṭīkā* (*Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版、MYANMAR vol. III p.366) によれば、Macchikāsaṇḍe ti evaṃnāmake nagare とあって、マッチカーサンダの規模を示す属性は「ナガラ (nagara)」とする。

[7-4] コーサラ (Kosala)

[世尊は] サーヴァッティのジェータ・ヴァナ (祇樹) のアナータピンディカ・アーラーマ (給孤独園) に住された (Sāvattṭhiyam viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme)。DN.009 *Poṭṭhapāda-s.* (「布吒婆樓経」 vol. I p.178)

[世尊は] サーケータ [城] ⁽¹⁾ のアンジャナ・ヴァナのミガダーヤに住された (Sākete viharati Añjanavane Migadāye)。SN.002-002-008 (vol. I p.054)

[世尊は] アヨッジャー ⁽²⁾ のガンガー河の辺に住された (Ayojjhāyam viharati Gaṅgāya nadiyā tire)。SN.022-095 (vol. III p.140)

[世尊は] ウッカッター [城] ⁽³⁾ のスバガ・ヴァナのサーラ・ラージャ樹下に住された (Ukkatthāyam viharati Subhagavane sālārājamūle)。MN.001 *Mūlapariyāya-s.* (「根本法門経」 vol. I p.001)

[世尊は] ウジュンニャー ⁽⁴⁾ のカンナカタのミガダーヤに住された (Ujunnāyam

viharati Kaṁṅakathale migadāye)。DN.008 *Kassapa-sihanāda-s.* (迦葉師子吼経 vol. I p.161)

[ウダーイン比丘は] カーマングダー [城] ⁽⁵⁾ のトーデッヤ・バラモンのアンバ・ヴァナに住していた (Kāmaṅḍāyaṃ viharati Todeyyassa brāhmaṇassa Ambavane)。SN.035-133 (vol.IV p.121)

(1) *Vimānavatthu-aṭṭhakathā* (p.115) には Sāketāyan ti Sāketanagare とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara)」とする。

(2) ナーランダ版ならびに *Chatṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版は Ayujjhāyaṃ と校訂。PTS テキストの脚注に Ayujjhāyaṃ とする写本もある。

註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol.II p.320) には「‘ガンガー河の辺に’とは、アユッジャ・プラに住む人々は、無数の比丘たちに囲まれて、如来が遊行して自分たちのナガラに到達されたのを見て、あるガンガー河の流れが曲る場所に、大きな密林に装われた地域に、教主の精舎を造って寄進した。その[精舎]に世尊は住された。それに関して‘ガンガー河の辺に’と言われる (Gaṅgāya nadiyā tīre ti Ayujjhapuravāsino aparimāṇabhikkhuparivāraṃ cārikaṃ caramāṇaṃ Tathāgataṃ attano nagaraṃ sampattaṃ disvā ekasmiṃ Gaṅgāya nivattanaṭṭhāne mahāvānasaṅḍamaṅḍitappadese satthu vihāraṃ katvā adamsu. Bhagavā tattha viharati. taṃ sandhāya vuttaṃ "Gaṅgāya nadiyā tīre" ti)」とあって、その規模を示す属性は「プラ (pura)」とか「ナガラ (nagara)」とする。

(3) 註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol. I p.010) には、ウッカッターについて「‘ウッカー’とは、『明かり』であって、『吉日、吉時を得た私は善星宿 (nakkhatta) を逃すまい』と、その城が夜も松明 [を灯した] 状態で建設されたことから、ウッカッター [ukka (松明) + ṭhita (状態)] と言われる (ukkā ti dīpikā, tañ ca nagaraṃ "maṅgaladivaso sukhaṇo sunakkhattaṃ mā atikkamī" ti rattim pi ukkāsu ṭhitāsu māpitattā ukkaṭṭhā ti vuccati)」と解釈されているほか、註釈書 *Manoratha-pūraṇī* (vol.III p.075) にも「‘ウッカッター’というのは、松明が掲げられている中、建設されたことから、このように得られた名称の城である (Ukkaṭṭhā ti ukkāhi dhāriyamānāhi māpitattā evaṃladdhāvohāraṃ nagaraṃ) と解釈され、両註釈書ともにウッカッターの規模を示す属性は「ナガラ (nagara)」とする。なお *Dictionary of Pāli Proper Names.* (vol. I p.329) を参照。

(4) ナーランダ版ならびに *Chatṭha Saṅgāyana CD* 版は Uruññāyaṃ と校定する。なお註釈書 *Sumaṅgala-vilāsini* (vol. II p.349) には「‘ウルンニャーに’とは、その国も城も《ウルンニャー》というこれが名であり、世尊はウルンニャー城に依止して住された (Uruññāyan ti Uruññā ti tassa raṭṭhassa pi nagarassa pi etad eva nāmaṃ, Bhagavā Uruññānagaraṃ upanissāya viharati)」とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara)」とする。なお *Dictionary of Pāli Proper Names.* (vol. I p.342) ‘Ujuññā(Ujuññā)’ を参照。

(5) 註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol.II p.399) には Kāmaṅḍāyan ti evaṃnāmake nagare とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara)」とする。

[7-5] ヴァッジ (Vajji)

[世尊は] ヴェーサーリーのマハーヴァナ内にあるクーターガーラサーラー (重閣講堂) に住された (Vesāliyaṃ viharati Mahāvane kūtāgāra-sālāyaṃ)。DN.006 *Mahāli-s.* (「摩訶梨経」 vol. I p.150)

[阿難は] ヴェーサーリーのベールヴァ・ガーマカに住した (Vesāliyaṃ viharati Beluvagāmake)。MN.052 *Aṭṭhakanāgara-s.* (「アッタカ城人経」 vol. I p.349)

[世尊は] ヴェーサーリーのゴータマカ・チェーティヤに住された (Vesāliyaṃ vi-

harati Gotamake cetiye)。 *Vinaya* 「捨墮 001」 (vol.III p.195)

[世尊は] ヴェーサーリーのサーランダダ・チエーティヤに住された (*Vesāliyam viharati Sārandade cetiye*)。 *AN.007-003-019* (vol.IV p.016)

[世尊は] ヴェーサーリーのアンバパーリー・ヴァナに住された (*Vesāliyam viharati Ambapālivane*)。 *SN.047-001* (vol.V p.141)

[世尊は] ヴェーサーリーの城外、プラ (都市) の西の方位に位置する (1) ヴァナサングダに住された (*Vesāliyam viharati bahinagare aparapure vanasaṅḍe*)。 *MN.012 Mahāsīhanāda-s.* (「師子吼大経」 vol. I p.068)

[あるヴァッジ族出身の比丘は (aññataro Vajjiputtako bhikkhu)] ヴェーサーリーの一森林に住していた (*Vesāliyam viharati aññatarasmim vanasaṅḍe*)。 *SN.009-009* (vol. I p.201)

[世尊は] ボーガ・ナガラのアーナンダ・チエーティヤに住された (*Bhoganagare viharati Ānandacetiye*)。 *AN.004-018-180* (vol. II p.167)

[世尊は] ナーティカ [村] (2) の煉瓦の家に住された (*Nāṭike viharati Giṅjakāvasathe*)。 *DN.018 Janavasabha-s.* (「閻尼沙経」 vol. II p.200)

(1) 註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol. II p.021) によれば、「‘プラの後方に (apara-pure)’ とは、プラ (都市) の後方に、西の方位に、という意味である (aparapure ti purassa apare, pacchimadisāyan ti attho)」とする。

(2) 註釈書 *Sumaṅgala-vilāsini* (vol. II p.637) には *Nāṭikiyā ti Nāṭikagāma* とあって、その規模を示す属性は「ガーマ (gāma)」とする。なお *SN.012-045* (vol. II p.074) などには「ナーティカの煉瓦の家に住した (*Nāṭike viharati Giṅjakāvasathe*)」ともある。この註釈書 *Sārattha-pakāsini* (vol. II p.075) によると、*Nāṭike ti dvinnam Nātakānam gāma* とあり、同様に「ガーマ (gāma)」とする。

[7-6] マッラ (Malla)

[世尊は] パーヴァー [城] (1) のアジャカラーパカ・チエーティヤのアジャカラーパカのヤッカの住処に住された (*Pāvāyam viharati Ajakalāpake cetiye Ajakalāpakassa yakkhassa bhavane*)。 *Udāna001-007* (p.004)

[世尊は] パーヴァーのチュンダ鍛冶子のアンバ・ヴァナに住された (*Pāvāyam viharati Cundassa kammāraputtassa ambavane*)。 *AN.010-017-176* (vol.V p.263)

[世尊は] クシナーラーのバリハラナ林に住された (*Kusinārāyam viharati Baliharane vanasaṅḍe*)。 *MN.103 Kinti-s.* (「如何経」 vol. II p.238)

[世尊は] クシナーラーのマッラ人たちのウパヴァッタナ [と名づける] サーラ・ヴァナに住された (*Kusinārāyam viharati Upavattane Mallānam* (2) *sālavane*)。 *Udāna 004-002* (p.037)

[世尊は] アヌピヤー [城] (3) のアンバ・ヴァナに住された (*Anupiyāyam viharati Ambavane*)。 *Udāna002-010* (p.018)

(1) PTS テキストでは *Pāṭaliyam* と校訂するが、註釈書により脚注の *Pāvāyam* を採った。なお註釈書 *Udāna-aṭṭhakathā* (p.063) には、*Pāvāyan ti evaṃnāmake Mallarājūnam nagare* とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara)」とする。

(2) PTS テキストは *Mallanam* と校訂するも、ナーランダー版ならびに *Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版により訂正。

- (3) 註釈書 *Udāna-aṭṭhakathā* (p.161) には *Anupiyāyan ti evaṃ nāmake nagare* とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (*nagara*)」とする。

[7-7] ヴァンサ (*Vaṃsa*)

[世尊は] コーサンビーのゴーシタ・アーラーマに住された (*Kosambiyam viharati Gositārāme*)。 *DN.007 Jāliya-s.* (「闍利経」 vol. I p.159)

[世尊は] コーサンビーのシンサパー・ヴァナに住された (*Kosambiyam viharati Siṃsapāvane* ⁽¹⁾)。 *SN.056-031* (vol. V p.437)

- (1) PTS テキストでは *Siṃsapāvane* と校訂するが、ナーランダー版により *Siṃsapāvane* と訂正。

[7-8] スーラセーナ (*Sūrasena*)

[マハーカッチャーナ (*Mahākaccāna*) 比丘は] マドゥラー [城] ⁽¹⁾ のグンダー・ヴァナに住した (*Madhurāyam viharati Gundhāvane*)。 *MN.084 Madhura-s.* (「摩偷羅経」 vol. II p.083)

[世尊は] ヴェーランジャー ⁽²⁾ のナレール・プチマンダ樹下に住された (*Verañjāyam viharati Naḷerupucimandamūle*)。 *AN.008-002-011* (vol. IV p.172) ⁽³⁾

- (1) 註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol. III p.052) には *Madhurāyan ti evaṃnāmake nagare* とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (*nagara*)」とする。

- (2) 註釈書 *Samanta-pāsādikā* (vol. I p.108) によれば「‘ヴェーランジャーに住された’とは、ここで‘ヴェーランジャー’とは、あるナガラにこの名称があり、‘*Verañjāyam*’はその近くを意味する処格である (*Verañjāyam viharatī ti ettha pana Verañjā ti aññatarassa nagarass’ etaṃ adhivacanam, tassam Verañjāyam samipatṭhe bhummavacanam*)」とある。なお『印度仏教固有名詞辞典』p.756では「市」、*Dictionary of Pāli Proper Names.* (vol. II p.929)では‘a town’とする。また同註釈書 (vol. I p.109)には「‘ナレールプチマンダ樹下に’とは、ここにナレールとはヤッカであり、プチマンダとはニンバ樹であり、樹下とは近くを意味する (*Naḷerupucimandamūle ti ettha Naḷeru nāma yakkho, pucimando ti nimbarukkho, mūlan ti samipam*)」とある。

- (3) そのほか *AN.004-006-053* (vol. II p.056) には「マドゥラーとヴェーランジャーとの間の大道に居た (*antarā ca Madhuraṃ antarā ca Verañjīṃ addhānamaggappaṭipanno hoti*)」ともある。なおナーランダー版は「*Verañjīṃ*」を「*Varaṅjam*」とする。

[7-9] サッカ (*Sakka*)

[世尊は] チャートゥマー [村] ⁽¹⁾ のアーマラキー・ヴァナに住された (*Cātumāyam viharati āmalakivane*)。 *MN.067 Cātuma-s.* (「車頭聚落経」 vol. I p.456)

- (1) 註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol. III p.172) には *Cātumāyan ti evaṃnāmake gāme* とあって、その規模を示す属性は「ガーマ (*gāma*)」とする。

[7-10] ヴィデーハ (*Videha*)

[世尊は] ミティラーのマカーデーヴァのアンバ・ヴァナに住された (*Mithilāyam viharati Makhādevambavane*)。 *MN.083 Makhādeva-s.* (「大天捺林経」 vol. II p.074)

[7-11] ヴァラナー (*Varaṇā*)

[マハーカッチャーナ比丘は] ヴァラナー [城] ⁽¹⁾ のカッダマダハ河辺に住した (*Varaṇāyam viharati Kaddamadahatire*)。 *AN.002-004-006* (vol. I p.065)

- (1) 註釈書 *Manoratha-pūraṇī* (vol. II p.139) には「‘ヴァラナーに住した’とは、ヴァラナーと名づける一つのナガラに、それに依止して住した、である (*Varaṇāyam viharatī ti*

Varaṇā nāma ekaṃ nagaram, taṃ upanissāya viharati) 」とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara) 」とする。

[8] 次に遊行型の用例を紹介する

[8-1] 以下は都市から都市への遊行の用例である。

[8-1-1] カピラヴァットウ ⇒ サーヴァッティ

[世尊は] カピラヴァットウに随意の間住された後、サーヴァッティに向けて出発された。次々に遊行してサーヴァッティに到着された。そこで世尊はサーヴァッティのジェータ・ヴァナのアナータピンディカ・アラーマに住された (Kapilavatthusmiṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Sāvatti tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Sāvatti tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Sāvattiyam viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme) 。*Vinaya* 「大毘尼度」 (vol. I p.083)

[8-1-2] カピラヴァットウ ⇒ ヴェーサーリー

[世尊は] カピラヴァットウに随意の間住された後、ヴェーサーリーに向けて出発された。次々に遊行してヴェーサーリーに到着された。そこで世尊はヴェーサーリーのマハーヴァナ内にあるクーターガーラサーラー (重閣講堂) に住された (Kapilavatthusmiṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Vesālī tena cārikaṃ pakkāmi, anupubbena cārikaṃ caramāno yena Vesālī tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Vesāliyam viharati Mahāvane kūṭāgārasālāyam) 。*AN.008-006-051* (vol. IV p.274) 、*Vinaya* 「比丘尼毘尼度」 (vol. II p.253)

[8-1-3] サーヴァッティ ⇒ ヴェーサーリー

[世尊は] サーヴァッティに随意の間住された後、ヴェーサーリーに向けて出発された。次々に遊行してヴェーサーリーに到着された。そこで世尊はヴェーサーリーのマハーヴァナ内にあるクーターガーラサーラー (重閣講堂) に住された (Sāvattiyam yathābhirantaṃ viharitvā yena Vesālī tena cārikaṃ pakkāmi, anupubbena cārikaṃ caramāno yena Vesālī tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Vesāliyam viharati Mahāvane kūṭāgārasālāyam) 。*Udāna003-003* (p.025)

[8-1-4] サーヴァッティ ⇒ ラージャガハ

[世尊は] サーヴァッティに随意の間住された後、ラージャガハに向けて出発された。次々に遊行してラージャガハに到着された。そこで世尊はラージャガハのヴェール・ヴァナのカランダカニヴァーパに住された (Sāvattiyam yathābhirantaṃ viharitvā yena Rājagahaṃ tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Rājagahaṃ tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Rājagahe viharati Veḷuvane Kalandakani-vāpe) 。*Vinaya* 「葉毘尼度」 (vol. I p.215)

[8-1-5] ボーガナガラ ⇒ パーヴァー

[世尊は] ボーガ・ナガラに随意の間住された後、尊者アーナンダに告げられた。『さあ、アーナンダよ、パーヴァーに赴こう』と。……パーヴァーに到着された。そこで世尊はパーヴァーのチュンダ鍛冶子のアンバ・ヴァナに住された (Bhoganagare yathābhirantaṃ viharitvā āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi : "āyāṃ' Ānanda yena

Pāvā ten' upasaṃkamissāmā ti." ……yena Pāvā tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Pāvāyaṃ viharati Cundassa kammāraputtassa ambavane) 。 *DN.016 Mahāparinibbāna-s.* (「大般涅槃經」 vol. II p.126)

[8-1-6] ヴェーサーリー ⇒ サーヴァッティ

[世尊は] ヴェーサーリーに随意の間住された後、サーヴァッティに向けて出発された。次々に遊行してサーヴァッティに到着された。そこで世尊はサーヴァッティのジェータ・ヴァナのアナータピンディカ・アーラーマに住された (Vesāliyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Sāvattī tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Sāvattī tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Sāvattīyaṃ viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme) 。 *Vinaya* 「比丘尼毘度」 (vol. II p.261)

[8-1-7] ヴェーサーリー ⇒ バーラーナシー

[世尊は] ヴェーサーリーに随意の間住された後、バーラーナシーに向けて出発された。次々に遊行してバーラーナシーに到着された。そこで世尊はバーラーナシーのイシパタナのミガダーヤに住された (Vesāliyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Bārāṇasī tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Bārāṇasī tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Bārāṇasiyaṃ viharati Isipatane migadāye) 。 *Vinaya* 「衣毘度」 (vol. I p.289)

[8-1-8] ヴェーサーリー ⇒ バッディヤ

[世尊は] ヴェーサーリーに随意の間住された後、バッディヤに向けて出発された。……ときに世尊は次々に遊行してバッディヤに到着された。そこで世尊はバッディヤのジャーティヤ・ヴァナに住された (Vesāliyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Bhaddiyaṃ tena cārikaṃ pakkāmi ……atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Bhaddiyaṃ tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Bhaddiye viharati Jātiyāvane) 。 *Vinaya* 「葉毘度」 (vol. I p.242)

[8-1-9] バーラーナシー ⇒ サーヴァッティ

[世尊は] バーラーナシーに随意の間住された後、サーヴァッティに向けて出発された。次々に遊行してサーヴァッティに到着された。そこで世尊はサーヴァッティのジェータ・ヴァナのアナータピンディカ・アーラーマに住された (Bārāṇasiyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Sāvattī tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Sāvattī tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Sāvattīyaṃ viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme) 。 *Vinaya* 「衣毘度」 (vol. I p.290)

[8-1-10] バーラーナシー ⇒ ヴェーサーリー

[世尊は] バーラーナシーに随意の間住された後、ヴェーサーリーに向けて出発された。次々に遊行してヴェーサーリーに到着された。そこで世尊はヴェーサーリーのマハーヴァナ内にあるクーターガーラサーラー (重閣講堂) に住された (Bārāṇasiyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Vesālī tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Vesālī tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Vesāliyaṃ viharati Mahāvane kūṭāgārasālāyaṃ) 。 *Vinaya* 「波羅夷 001」 (vol. III p.011)

[8-1-11] バーラーナシー ⇒ バッディヤ

[世尊は] バーラーナシーに随意の間住された後、バッドィヤに向けて出発された。次々に遊行してバッドィヤに到着された。そこで世尊はバッドィヤのイシパタナのジャーティヤー・ヴァナに住された (Bārānasiyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Bhaddiyaṃ tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Bhaddiyaṃ tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Bhaddiye viharati Isipatane Jātiyāvane) 。 *Vinaya* 「皮革韃度」 (vol. I p.189)

[8-1-12] コーサンビー ⇒ ラージャガハ

[世尊は] コーサンビーに随意の間住された後、ラージャガハに向けて出発された。次々に遊行してラージャガハに到着された。そこで世尊はラージャガハのヴェール・ヴァナのカランダカニヴァーパに住された (Kosambiyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Rājagahaṃ tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Rājagahaṃ tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Rājagahe viharati Veḷuvane Kalandakanivāpe) 。 *Vinaya* 「破僧韃度」 (vol. II p.187)

[8-1-13] パーリレツヤカ ⇒ サーヴァッティ

[世尊は] パーリレツヤカ⁽¹⁾に随意の間住された後、サーヴァッティに向けて出発された。次々に遊行してサーヴァッティに到着された。そこで世尊はサーヴァッティのジェータ・ヴァナのアナータピンディカ・アーラーマに住された (Pārileyyake yathābhirantaṃ viharitvā yena Sāvatti tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Sāvatti tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Sāvattiyaṃ viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme) 。 *Vinaya* 「コーサンビー韃度」 (vol. I p.353)

(1) *SN.022-081* (vol. III p.095) に「ときに世尊は次々に遊行してパーリレツヤカに到達された (atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Pārileyyakaṃ tad avasari)」とある箇所を註釈して、*Sārattha-pakāsini* (vol. II p.304) には *Pāliyyanagaraṃ* とある。したがってこれによれば、パーリレツヤカの規模を示す属性は「ナガラ (nagara)」ということになる。

[8-1-14] ラージャガハ ⇒ サーヴァッティ

[世尊は] ラージャガハに随意の間住された後、サーヴァッティに向けて出発された。次々に遊行してサーヴァッティに到着された。そこで世尊はサーヴァッティのジェータ・ヴァナのアナータピンディカ・アーラーマに住された (Rājagahe yathābhirantaṃ viharitvā yena Sāvatti tena cārikaṃ pakkāmi ; anupubbena cārikaṃ caramāno yena Sāvatti tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Sāvattiyaṃ viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme) 。 *MN.024 Rathavinīta-s.* (「伝車経」 vol. I p.146) 、 *Vinaya* 「入雨安居韃度」 (vol. I p.139) 、 *Vinaya* 「葉韃度」 (vol. I p.214)

[8-1-15] ラージャガハ ⇒ カピラヴァットゥ

[世尊は] ラージャガハに随意の間住された後、カピラヴァットゥに向けて出発された。次々に遊行してカピラヴァットゥに到着された。そこで世尊はサッカ人たちの住む [諸ジャナパダのなかの] カピラヴァットゥのニグロード・アーラーマに住された (Rājagahe yathābhirantaṃ viharitvā yena Kapilavatthu tena cārikaṃ pakkāmi.

anupubbena cārikam caramāno yena Kapilavatthu tad avasari. tatra sudam Bhagavā Sakkesu viharati Kapilavattusmiṃ Nigrodhārāme)。 *Vinaya* 「大韃度」 (vol. I p.082)

[8-1-16] ラージャガハ ⇒ ヴェーサーリー

[世尊は] ラージャガハに随意の間住された後、ヴェーサーリーに向けて出発された。次々に遊行してヴェーサーリーに到着された。そこで世尊はヴェーサーリーのマハーヴァナ内にあるクーターガーラサーラー（重閣講堂）に住された（Rājagahe yathābhirantaṃ viharitvā yena Veṣālī tena cārikam pakkāmi. anupubbena cārikam caramāno yena Vesālī tad avasari. tatra sudam Bhagavā Vesāliyaṃ viharati Mahāvane kūṭāgārasālāyaṃ）。 *Vinaya* 「臥座具韃度」 (vol. II p.159)

[8-1-17] ラージャガハ ⇒ バーラーナシー

[世尊は] ラージャガハに随意の間住された後、バーラーナシーに向けて出発された。次々に遊行してバーラーナシーに到着された。そこで世尊はバーラーナシーのイシパタナのミガダーヤに住された（Rājagahe yathābhirantaṃ viharitvā yena Bārāṇasī tena cārikam pakkāmi. anupubbena cārikam caramāno yena Bārāṇasī tad avasari. tatra sudam Bhagavā Bārāṇasiyaṃ viharati Isipatane migadāye）。 *Vinaya* 「皮革韃度」 (vol. I p.189)、*Vinaya* 「菴韃度」 (vol. I p.216)

[8-1-18] バッディヤ ⇒ サーヴァッティ

[世尊は] バッディヤに随意の間住された後、サーヴァッティに向けて出発された。次々に遊行してサーヴァッティに到着された。そこで世尊はサーヴァッティのジェータ・ヴァナのアナータピンディカ・アラーマに住された（Bhaddiye yathābhirantaṃ viharitvā yena Sāvattthi tena cārikam pakkāmi. anupubbena cārikam caramāno yena Sāvattthi tad avasari. tatra sudam Bhagavā Sāvattthiyaṃ viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme）。 *Vinaya* 「皮革韃度」 (vol. I p.190)

[8-2] 以下は都市から町への用例である。

[8-2-1] サーヴァッティ ⇒ キターギリ⁽¹⁾

[世尊は] サーヴァッティに随意の間住された後、キターギリに向けて出発された。……ときに世尊は次々に遊行してキターギリに到着された（Sāvattthiyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Kiṭāgiri tena cārikam pakkāmi …… atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Kiṭāgiri tad avasari)。 *Vinaya* 「臥座具韃度」 (vol. II p.170)

(1) *MN.070 Kiṭāgiri-s.* (「枳咤山邑経」 vol. I p.473) に「[世尊は] キターギリという名のカーシ人たちのニガマに到達された (yena Kiṭāgiri nāma Kāsīnaṃ nigamo tad avasari)」とある。また註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol. III p.185) によれば「‘キターギリ’ というのは、その町の名前である (Kiṭāgiri ti tassa nigamassa nāmaṃ)」とあって、その規模を示す属性は「ニガマ (nigama)」とする。なお『印度仏教固有名詞辞典』では「邑」 (p.310)、*Dictionary of Pāli Proper Names.* (vol. I p.597) では ‘a village’ とする。

[8-2-2] クシナーラー ⇒ アートゥマー

[世尊は] クシナーラーに随意の間住された後、アートゥマー⁽¹⁾ に向けて出発された。……ときに世尊は次々に遊行してアートゥマーに到着された。そこで世尊はアートゥ

マーの粉殻の倉庫⁽²⁾に住された (Kusinārāyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Ātumā tena cārikaṃ pakkāmi……atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Ātumā tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Ātumāyaṃ viharati bhusāgāre)。

Vinaya 「菜菔度」 (vol. I p.249)

(1) 『印度仏教固有名詞辞典』 (p.066) によれば「村」、*Dictionary of Pāli Proper Names.* (vol. I p.244) によれば ‘town’、中村元 (『遊行経 (下)』大蔵出版 1985) では「村」 (p.470) と解する。

(2) 中村元『遊行経 (下)』p.467の註(1)を参照。『印度仏教固有名詞辞典』p.066、並びに *Dictionary of Pāli Proper Names.* (vol. I p.244) を参照。

[8-3] 以下は都市から村への用例である。

[8-3-1] ヴェーサーリー ⇒ バンダ・ガーマ

ときに世尊は早朝に衣を着て、鉢と衣を携えてヴェーサーリーへ乞食に入った。……

[世尊は] 阿難に「阿難よ、私はバンダ・ガーマへ赴こう」と。……バンダ・ガーマに到達された。そこで世尊はバンダ・ガーマに住された (atha kho Bhagavā pubbanhasamayāṃ nivāsetvā pattacivaramādāya Veṣālīṃ piṇḍāya pāvīsi.……āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi :……"āyāṃ' Ānanda yena Bhaṇḍagāmo ten' upasaṃkamissāmā ti."……yena Bhaṇḍagāmo tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Bhaṇḍagāme viharati)。

DN.016 Mahāparinibbāna-s. (「大般涅槃経」vol. II p.122)

[8-3-2] バーラーナシー ⇒ アンダカヴィンダ

[世尊は] バーラーナシーに随意の間住された後、アンダカヴィンダ⁽¹⁾に向けて出発された。……ときに世尊は次々に遊行してアンダカヴィンダに到着された (Bārāna-
siyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Andhakavindaṃ tena cārikaṃ pakkāmi……
atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Andhakavindaṃ tad avasari)。

Vinaya 「菜菔度」 (vol. I p.220)

(1) 本論文【5】 [1] [1-2] p.124の註(1)を参照。

[8-3-3] ラージャガハ ⇒ パータリ・ガーマ

[世尊は] ラージャガハに随意の間住された後、パータリ・ガーマに向けて出発された。……ときに世尊は次々に遊行してパータリ・ガーマに到着された (Rājagahe ya-
thābhirantaṃ viharitvā yena Pāṭaligāmo tena cārikaṃ pakkāmi……atha kho Bha-
gavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Pāṭaligāmo tad avasari)。*Vinaya* 「菜菔
度」 (vol. I p.226)

[8-3-4] ナーランダール ⇒ パータリ・ガーマ

[世尊は] ナーランダール⁽¹⁾に随意の間住された後、阿難に「阿難よ、私はパータリ・
ガーマへ赴こう」と。……パータリ・ガーマに到達された (Nālandāyaṃ yathābhiran-
taṃ viharitvā āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi : "āyāṃ' Ānanda yena Pāṭaligāmo
ten' upasaṃkamissāmā ti." …… yena Pāṭaligāmo tad avasari)。*DN.016*
Mahāparinibbāna-s. (「大般涅槃経」vol. II p.084)

(1) 本論文【5】 [7] [7-2] p.135の註(2)を参照。*Dictionary of Pāli Proper Names.* (vol. II p.056) ‘1. Nālandā’ では ‘A town’ とする。なおこの箇所は梵文や有部本に相応文がないことから、後世の付加とされている。中村元『ブツダ最後の旅』(岩波文庫 1980)

[8-4] 以下は都市から地方（地区）、王園への用例である。

[8-4-1] バーラーナシー ⇒ ウルヴェーラー [地方（地区）]

[世尊は] バーラーナシーに随意の間住された後、ウルヴェーラーに向けて出発された。……ときに世尊は次々に遊行してウルヴェーラーに到着された (*Bārāṇasīyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Uruvelā tena cārikaṃ pakkāmi.……atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Uruvelā tad avasari*)。 *Vinaya* 「大毘度」 (vol. I p.023～p.024)

[8-4-2] ラージャガハ ⇒ アンバラッティカー [王園]

[世尊は] ラージャガハに随意の間住された後、阿難に「阿難よ、私はアンバラッティカー⁽¹⁾へ赴こう」と。……アンバラッティカーに到達された。そこで世尊はアンバラッティカー内の王の家（別邸）に住された (*Rājagahe yathābhirantaṃ viharitvā āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi : "āyāma' Ānanda yena Ambalaṭṭhikā ten' upasaṃkamissāma ti."* ……yena Ambalaṭṭhikā tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Ambalaṭṭhikāyaṃ viharati Rājāgārake)。 *DN.016 Mahāparinibbāna-s.* (「大般涅槃經」 vol. II p.081)

(1) 註釈書 *Sumaṅgala-vilāsini* (vol. I p.041) には「‘アンバラッティカー’とは、王の庭園、である (*Ambalaṭṭhikā ti rañño uyyānaṃ*)」とある。

[8-5] 以下は町から都市などへの用例である。

[8-5-1] パンカダー ⇒ ラージャガハ

[世尊は] パンカダー⁽¹⁾に随意の間住された後、ラージャガハに向けて出発された。次々に遊行してラージャガハに到着された。そこで世尊はラージャガハのギッジャクータ山に住された (*Paṅkadhāyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Rājagaḥaṃ tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Rājagaḥaṃ tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Rājagahe viharati Gijjhakūṭe pabbate*)。 *AN.003-009-090* (vol. I p.236)

(1) 同聖典中に「パンカダーと名づけるコーサラ人たちの町 (*Paṅkadhā nāma Kosalānaṃ nigamo*)」 (vol. I p.236) とあるので、その規模を示す属性は「ニガマ (*nigama*)」である。

[8-5-2] ヴェーバリンガ ⇒ バーラーナシー

[過去の迦葉仏は (*Kassapo bhagavā arahaṃ sammāsambuddho*)] ヴェーバリンガ⁽¹⁾に随意の間住された後、バーラーナシーに向けて出発された。次々に遊行してバーラーナシーに到着された。そこで…… [迦葉仏は] バーラーナシーのイシパタナのミガダーヤに住された (*Vebhaliṅge yathābhirantaṃ viharitvā yena Bārāṇasī tena cārikaṃ pakkāmiṃ ; anupubbena cārikaṃ caramāno yena Bārāṇasī tad avasari. tatra sudaṃ …… Bārāṇasīyaṃ viharati Isipatane migadāye*)。 *MN.081 Ghaṭikāra-s.* (「陶師經」 vol. II p.049)

(1) 本文中に「ヴェーバリンガと名づける市場村 (*Vebhaliṅgaṃ nāma gāmanigamaṃ*)」 (p.045) とある。なおナランダー版ならびに *Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版は *Vegaḷiṅga* と校訂する。

[8-5-3] アートゥマー ⇒ サーヴァッティ

[世尊は] アートゥマーに随意の間住された後、サーヴァッティーに向けて出発された。次々に遊行してサーヴァッティーに到着された。そこで世尊はサーヴァッティーのジェータ・ヴァナのアナータピンディカ・アラーマに住された (Ātumāyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Sāvattḥi tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Sāvattḥi tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Sāvattḥiyaṃ viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme)。 *Vinaya* 「菓鞞度」 (vol. I p.250)

[8-5-4] アヌピヤー ⇒ コーサンビー

[世尊は] アヌピヤーに随意の間住された後、コーサンビーに向けて出発された。次々に遊行してコーサンビーに到着された。そこで世尊はコーサンビーのゴーシタ・アラーマに住された (Anupiyāyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Kosambī tena cārikaṃ pakkāmi. anupubbena cārikaṃ caramāno yena Kosambī tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Kosambiyaṃ viharati Ghositārāme)。 *Vinaya* 「破僧鞞度」 (vol. II p.184)

[8-5-5] バツダヴァティカー ⇒ コーサンビー

[世尊は] バツダヴァティカー⁽¹⁾に随意の間住された後、コーサンビーに向けて出発された。……ときに世尊は次々に遊行してコーサンビーに到着された (Bhaddavatīkāyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Kosambī tena cārikaṃ pakkāmi. …… atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Kosambī tad avasari)。 *Vinaya* 「波逸提 051」 (vol. IV p.109)

- (1) 註釈書 *Samanta-pāsādikā* (vol. IV p.859) には *Bhaddavatīkā ti eko gāmo* とあって、その規模を示す属性は「ガーマ (*gāma*)」とする。しかし *Jātaka 081* (vol. I p.360) では *Bhaddavatīkaṃ nāma nigamaṃ* とあり、「ニガマ (*nigama*)」とする。なお *Dictionary of Pāli Proper Names*. (vol. II p.351) によれば ‘a market-town’ とある。

[8-5-6] トウツラコッティタ ⇒ サーヴァティー

[世尊は] トウツラコッティタ⁽¹⁾に随意の間住された後、サーヴァティーに向けて出発された。次々に遊行してサーヴァティーに到着された。そこで世尊はサーヴァッティーのジェータ・ヴァナのアナータピンディカ・アラーマに住された (Thullakotthita yathā bhirantaṃ viharitvā yena Sāvattḥi tena cārikaṃ pakkāmi, anupubbena cārikaṃ caramāno yena Sāvattḥi tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Sāvattḥiyaṃ viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme)。 *MN.082 Raṭṭhapāla-s.* (「頼吒唎羅經」 vol. II p.060)

- (1) 本文中に Thullakotthikaṃ nāma Kurūnaṃ nigamo (p.054) とあるので、その規模を示す属性は「ニガマ (*nigama*)」である。

[8-5-7] アーパナ ⇒ クシナーラー

[世尊は] アーパナに随意の間住された後、クシナーラーに向けて出発された……ときに世尊は次々に遊行してクシナーラーに到着された (Āpaṇe yathābhirantaṃ viharitvā yena Kusinārā tena cārikaṃ pakkāmi …… atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Kusinārā tad avasari)。 *Vinaya* 「菓鞞度」 (vol. I p.247)

[8-6] 以下は村から城への用例である。

[8-6-1] アンダカヴィンダ ⇒ ラージャガハ

[世尊は] アンダカヴィンダに随意の間住された後、ラージャガハに向けて出発され

た……ときに世尊は次々に遊行してラージャガハに到着された。そこで世尊はラージャガハのヴェール・ヴァナのカラダカニヴァーパに住された (*Andhakavinde yathābhirantaṃ viharitvā yena Rājagahaṃ tena cārikaṃ pakkāmi*……atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Rājagahaṃ tad avasari. tatra sudam Bhagavā Rājagahe viharati Veḷuvane Kalandakanivāpe)。 *Vinaya* 「薬鍵度」 (vol. I p.224 ~p.226)

[8-7] 以下は村から地方への用例である。

[8-7-1] コーティ・ガーマ ⇒ ナーディカー [地方]

[世尊は] コーティ・ガーマに随意の間住された後、阿難に「阿難よ、私はナーディカー⁽¹⁾へ赴こう」と。……ナーディカーに到達された。そこで世尊はナーディカーのギンジャカーヴァサタに住された (*Koṭigāme yathābhirantaṃ viharitvā āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi* : "āyāma' Ānanda yena Nādikā ten' upasaṃkamissāmā ti." …… yena *Nādikā* tad avasari. ⁽²⁾ tatra pi sudam Bhagavā Nādike viharati giṅjakāvāsathē)。 *DN.016 Mahāparinibbāna-s.* (「大般涅槃經」 vol. II p.091)、 *Vinaya* 「薬鍵度」 (vol. I p.232)

(1) ナーランダ版ならびに *Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版には *Nātikā* と校訂する。註釈書 *Sumaṅgala-vilāsini* (vol. II p.543) に「‘ナーティカー’とは、1つの沼の近くにある2つの小父、大父・息子らの2つの村である (*Nātikā ti ekaṃ taḷākaṃ nissāya dvinnam cūlapitumahāpituputtānaṃ dve gāmā*)」とか、あるいは「‘ナーティカーに’とは、1つのニャーティ・ガーマカに、である (*Nātike ti ekasmiṃ Nātigāmake*)」とあって、その規模を示す属性を「ガーマ (*gāma*)」「ガーマカ (*gāmaka*)」とする。中村元『遊行経(上)』の註「ナーディカー」(p.211)を参照。

(2) なお *Vinaya* 「薬鍵度」 (vol. I p.232) では「[世尊は] コーティ・ガーマに随意の間住された後、ナーティカーに赴かれた (*Koṭigāme yathābhirantaṃ viharitvā yena Nātikā ten' upasaṃkami*)」とある。

[8-8] その他の用例である。

[8-8-1] ナーディカー [地方] ⇒ ヴェーサーリー

[世尊は] ナーディカーに随意の間住された後、阿難に「阿難よ、私はヴェーサーリーへ赴こう」と。……ヴェーサーリーに到達された。そこで世尊はヴェーサーリーのアンバパーリー・ヴァナに住された (*Nādike yathābhirantaṃ viharitvā āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi* : "āyāma' Ānanda yena Vesāli ten' upasaṃkamissāmā ti." …… yena *Vesāli* tad avasari. tatra sudam Bhagavā Vesāliyaṃ viharati Ambapālivane)。 *DN.016 Mahāparinibbāna-s.* (「大般涅槃經」 vol. II p.094)

[8-8-2] ウルヴェーラー [地方] ⇒ バーラーナシー

[世尊は] ウルヴェーラーに随意の間住された後、バーラーナシーに向けて出発された。……ときに世尊は次々に遊行してバーラーナシーのイシパタナのみガダーヤにいた、五比丘のもとに赴かれた (*Uruvelāyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Bārānaṣi tena cārikaṃ pakkāmi*……atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Bārānaṣi Isipatanaṃ migadāyo, yena pañcavaggiyā bhikkhū ten' upasaṃkami)。 *Vinaya* 「大鍵度」 (vol. I p.008)、 *MN.026 Ariyapariyesana-s.* (「聖求経」 vol. I

p.170)

[8-8-3] ウルヴェーラー ⇒ ガヤーシーサ

[世尊は] ウルヴェーラーに随意の間住された後、ガヤーシーサに向けて出発された……そこで世尊はガヤーのガヤーシーサに住された (Uruvelāyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Gayāsīsaṃ tena cārikaṃ pakkāmi……tatra sudaṃ Bhagavā Gayāyaṃ viharati Gayāsīse)。 *Vinaya* 「大毘尼耶」 (vol. I p.034)

[8-8-4] ガヤーシーサ ⇒ ラージャガハ

[世尊は] ガヤーシーサに随意の間住された後、ラージャガハに向けて出発された……ときに世尊は次々に遊行してラージャガハに到着された。そこで世尊はラージャガハのラッティ・ヴァナのスッパティッタ・チエーティヤに住された (Gayāsīse yathābhirantaṃ viharitvā yena Rājagahaṃ tena cārikaṃ pakkāmi…… atha kho Bhagavā anupubbena cārikaṃ caramāno yena Rājagahaṃ tad avasari. tatra sudaṃ Bhagavā Rājagahe viharati Latṭhivane suppatiṭṭhe cetiye)。 *Vinaya* 「大毘尼耶」 (vol. I p.035)

[8-8-5] ダッキナーギリ ⇒ ラージャガハ

[舍利弗は] ダッキナーギリ⁽¹⁾ に随意の間住した後、ラージャガハに向けて出発した。次々に遊行してラージャガハに到着した。そこで舍利弗はラージャガハのヴェール・ヴァナのカランダカニヴァーパに住した (Dakkhīnāgiriṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Rājagahaṃ tena cārikaṃ pakkāmi ; anupubbena cārikaṃ caramāno yena Rājagahaṃ tad avasari. tatra sudaṃ āyasmā Sāriputto Rājagahe viharati Veḷuvane Kalandakanivāpe)。 *MN.097 Dhānañjāni-s.* (「陀然經」 vol. II p.185)

[阿難は] ダッキナーギリに随意の間住した後、ラージャガハのヴェール・ヴァナのカランダカニヴァーパ [に住する] マハーカッサパのもとに来た (Dakkhīnāgiriṃ yathābhirantaṃ cārikaṃ caritvā yena Rājagahaṃ Veḷuvanaṃ Kalandakanivāpo yenāyasmā Mahā-kassapo tenupasaṅkami)。 *SN.016-011* (vol. II p.218)

[プラーナ比丘は] ダッキナーギリに随意の間住した後、ラージャガハのヴェール・ヴァナのカランダカニヴァーパ [に住する] 長老比丘たちのもとに来た (Dakkhīnāgiriṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Rājagahaṃ yena Veḷuvanaṃ Kalandakanivāpo yena therā bhikkhū ten' upasaṅkami, ……)。 *Vinaya* 「五百毘尼耶」 (vol. II p.289)

(1) 註釈書 *Papañca-sūdanī* (vol. III p.429)、*Sārattha-pakāsini* (vol. I p.242)、同 (vol. II p.176)、*Suttanipāta-aṭṭhakathā* (vol. I p.136) によると「ダッキナーギリ (Dakkhīnāgiri)」は王舎城を取り囲む山のうち、南方にある地域 (janapada) を指して名づけられ、そこには精舎があった、と解説されている。 *Dictionary of Pāli Proper Names.* (vol. I p.1049) には 'A janapada (district)' とする。

[8-8-6] アンバラッティカー ⇒ ナーランダー

[世尊は] アンバラッティカーに随意の間住された後、阿難に「阿難よ、私はナーランダーへ赴こう」と。……ナーランダーに到達された。そこで世尊はナーランダーのパヴァーリカのアンバ・ヴァナに住された (Ambalatthikāyaṃ yathābhirantaṃ

viharitvā āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi : "āyām' Ānanda yena Nālandā ten' upasaṃkamissāmā ti." … yena Nālandā tad avasari. tatra sudam Bhagavā Nālandāyaṃ viharati Pāvārikambavane) 。 *DN.016 Mahāparinibbāna-s.* (「大般涅槃經」 vol. II p.081)

[8-8-7] アンバパーリー園 ⇒ ベールヴァ・ガーマカ

[世尊は] アンバパーリー・ヴァナに随意の間住された後、阿難に「阿難よ、私はベールヴァ・ガーマカへ赴こう」と。……ベールヴァ・ガーマカに到達された。そこで世尊はベールヴァ・ガーマカに住された (Ambapāli-vane yathābhirantaṃ viharitvā āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi : "āyām' Ānanda yena Beluva-gāmako ten' upasaṃkamissāmāti." … yena Beluvagāma tad avasari. tatra sudam Bhagavā Beluvagāmake viharati) 。 *DN.016 Mahāparinibbāna-s.* (「大般涅槃經」 vol. II p.098)

[9] 以下には複数の経由地が示されているものを紹介する。これにはより明確に当時の交通路が表されていると見ることができる。

[9-1] ヴェーランジャー ⇒ パヤーガの渡し場

[世尊は] ヴェーランジャーに随意の間住された後、ソーレツヤ [城] ⁽¹⁾、サンカッサ [城] ⁽²⁾、カンナクツジャ [城] ⁽³⁾ を経てパヤーガの渡し場 ⁽⁴⁾ に赴かれた (Ve-lañjāyaṃ yathābhirantaṃ viharitvā anupagamma Soreyyam Samkassam Kannakuj-jam yena Payāgapatitthānam ten' upasaṃkami) 。 *Vinaya* 「波羅夷 001」 (vol. III p.011)

- (1) 当該箇所 の復註 *Sāratthadīpanī-ṭīkā* によると「ソーレツヤ・ナガラ等に近づかずに (Soreyyanagarādini anupagantvā) 」 (*Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版、*MYANMAR* vol. I p.459) とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara) 」とする。
- (2) *Dhammapada-aṭṭhakathā* (vol. III p.224) などには *Saṅkassa-nagare* とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara) 」とする。
- (3) *Buddhavaṃsa-aṭṭhakathā* (p.233) には *Kaṇṇakujja-nagare* とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara) 」とする。
- (4) 当該箇所 の復註 *Sāratthadīpanī-ṭīkā* によると「‘パヤーガの渡し場’とは、ガーマと渡し場の名称である (Payāgapatitthānan ti gāmassa pi adhvacaṃ titthassa pi) 」 (*Chaṭṭha Saṅgāyana CD-ROM* 版、*MYANMAR* vol. I p.459) とある。

[9-2] バンダガーマ ⇒ ボーガ・ナガラ

[世尊は] バンダ・ガーマに随意の間住されたのち、阿難に「阿難よ、私はハッティ・ガーマ、アンバ・ガーマ、ジャンブ・ガーマ、ボーガ・ナガラに赴こう」と告げられた (Bhaṇḍagāme yathābhirantaṃ viharitvā āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi : "āyām' Ānanda yena Hatthigāmo … Ambagāmo … Jambugāmo … yena Bhoganagaram ten' upasaṃkamissāmā ti) 。 *DN.016 Mahāparinibbāna-s.* (「大般涅槃經」 vol. II p.123)

[9-3] コーサラ ⇒ ゴーダーヴァリー河の堤

[パーヴァリン (Bāvarin) 婆羅門が] コーサラ人たちの美しいプラ [すなわち、舎衛城 ⁽¹⁾] からダッキナーパタに来た (*Kosalānaṃ purā rammā agamā* Dakkhiṇāpa-

tham) ……彼はアッサカの領域とアラカ [の領域] の接したところの (2) ゴーダーヴァリーの堤に (3) 住した (so Assakassa visaye Aḷakassa samāsane, vaṣi Godhāvarikūle) 。
Suttanipāta v. 976-977 (p.190)

- (1) *Suttanipāta-aṭṭhakathā* (vol. II p.580) によると「‘コーサラ人たちのプラ (都市) から’ とは、コーサラ・ラッタのナガラから、サーヴァッティ (舎衛城) から、と言われる (Kosalānaṃ purā ti Kosalaratṭhassa nagarā, Sāvattitho ti vuttaṃ hoti) 」とある。
- (2) 同上註釈書 (vol. II p.581) によると「‘彼はアッサカの領域とアラカの [領域の] 接したところに’ とは、かの婆羅門がアッサカとアラカという2つの王国の接した領域に、近き国に、2つの国の中間に、と同意である (so Assakassa visaye, Aḷakassa samāsane ti so brāhmaṇo Assakassa ca Aḷakassa cā ti dvinnam pi rājūnaṃ samāsanne visaye āsanne raṭṭhe, dvinnam pi raṭṭhānaṃ majjhe ti adhippāyo) 」とある。
- (3) 同上註釈書 (vol. II p.581) によると「‘ゴーダーヴァリーの堤に’ とは、ゴーダーヴァリー河の堤に、である (Godhāvārī kūle ti Godhāvāriyā nadiyā kūle) 」とある。

[9-4] アラカの [首都] パティターナ ⇒ ラージャガハ

[パーヴァリン婆羅門の弟子 16 人が] アラカ (1) のパティターナ (2) に入り (**Aḷakassa Patitthānaṃ pakkāmaṃ**)、それから古都のマーヒッサティ (3) へ、またウツジェーニー (4)、ゴーナッタ (5)、ヴェーディサ (6)、ヴァナサ (7) と称されるところへ (**Māhissatim tadā Ujjenī cāpi Gonaddham Vedisam Vanasavhayaṃ**)、またコーサンビー、サーケータ、サーヴァッティに行った (**Kosambim cāpi Sāketam Sāvattihī ca puruttamaṃ**)。[ついで] セータヴィヤ、カピラヴァットウ、クシナーラーの都市に [入った] (**Setavyam Kapilavatthum Kusināraṇ ca**)。またパーヴァー、ボーガ・ナガラ、ヴェーサーリー、マガダのプラ [すなわち、王舎城 (8)] へ (**Pāvaṇ ca Bogana-garam Vesālim Māgadham puram**)、そして美しく喜ばしきパーサーナカ (9)・チェーティヤに [到達した] (**Pāsānakaṇ cetiyaṇ ca ramaṇiyaṃ manoramaṃ**)。 *Suttanipāta* vs.1011-1013 (p.194)

- (1) 『印度仏教固有名詞辞典』 p.016、並びに *Dictionary of Pāli Proper Names*. (vol. I p.190) ‘1. Aḷaka’ を参照。
- (2) 赤沼智善、G. P. Malalasekera はアラカの首府 (首都) とする。『印度仏教固有名詞辞典』 p.016、並びに *Dictionary of Pāli Proper Names*. (vol. II p.127) を参照。
- (3) *Suttanipāta-aṭṭhakathā* (vol. II p.583) によると「‘マーヒッサティへ’ とは、マーヒッサティという名前の古のナガラへ、と言われる (Māhissatin ti Māhissatināmikam purimanagaran ti vuttaṃ hoti) 」とあって、その規模を示す属性は「ナガラ (nagara) 」である。なお赤沼智善、G. P. Malalasekera はアヴァンティの市 (首都) とある。『印度仏教固有名詞辞典』 「Ujjenī 1」の [8] (p.704)、ならびに *Dictionary of Pāli Proper Names*. (vol. II p.623) を参照。
- (4) *Jātaka-aṭṭhakathā* (vol. IV p.397) には Avantiratṭhe Ujjeninagare とある。なお G. P. Malalasekera はアヴァンティの首都とする。 *Dictionary of Pāli Proper Names*. (vol. I p.344) を参照。
- (5) *Suttanipāta-aṭṭhakathā* (vol. II p.583) によると「‘ゴーナッタ’ というのは、ゴダブラの名である (Gonaddhan ti Godhapurassa nāmaṃ) 」とあり、サーンチーに近いところにあったらしいと言われる。中村元『ブッダのことば』の註「ゴーナッタ」 (p.256) を参照。
- (6) アヴァンティ国の首府であったという。中村元『ブッダのことば』の註「ヴェーディサ」

(p.257) を参照。

- (7) *Suttanipāta-aṭṭhakathā* (vol. II p.583) によると「‘ヴァナサと称される所’とは、パヴァナ・ナガラと言われる。[そのナガラを] ある人びとは“ヴァナサーヴァッティ”と [称している] (*Vanasavhayan ti Pavananagaraṃ vuccati, "Vanasāvattin" ti eke*) 」とある。なお「ヴァナサーヴァッティ」を「森の舎衛城 (*Vana-sāvattin*) 」と解されている。村上真完・及川真介訳註『仏のことば (四) —パラマッタ・ジョーティカー—』(春秋社 1989) p.025 参照。
- (8) 同上註釈書 (vol. II p.584) によると、「‘マガダのプラに’とは、マガダの首都ラージャガハ (王舎城) に、という意味である (*Māgadham puran ti Magadhapuram Rājagahan ti adhippāyo*) 」とある。
- (9) 同上註釈書 (vol. II p.584) によると「‘パーサーナカ・チェーティヤに’とは、昔、大きな岩の上に、デーヴァの住処 (神祠) があつた。ところが世尊が出現されたとき、[そこが] ヴィハーラ (精舎) となつた。それはそのまま古き名称で“パーサーナカ・チェーティヤ”と言われる (*Pāsāṇakaṃ cetiyan ti mahato pāsāṇassa upari pubbe devaṭṭhānaṃ ahoṣi. uppanne pana Bhagavati vihāro jāto. so ten eva purimavohārena "Pāsāṇakaṃ cetiyan" ti vuccati*) 」とある。

[9-5] ソーレツヤ ⇨ サハジャーティ

[レーヴァタ比丘 (*Revata*) は長老比丘たちを避けようとして] ソーレツヤよりサンカッサに行った (*Soreyyā Samkassam agamāsi*) ……サンカッサよりカンナクツジャに行った (*Samkassā Kannakujjam agamāsi*) ……カンナクツジャよりウドウンバラ (1) に行った (*Kannakujjā Udumbaram agamāsi*) ……ウドウンバラよりアッガラプラ (2) に行った (*Udumbarā Aggalapuram agamāsi*) ……アッガラプラよりサハジャーティに行った (*Aggalapurā Sahajātim agamāsi*) 。*Vinaya* 「七百犍度」 (vol. II p.299)

(1) *Dictionary of Pāli Proper Names*. (vol. I p.377) によれば ‘village’ とする。

(2) 同上書 (vol. I p.377) によれば ‘city’ (p.009) とする。

[10] 以上のように、ジャナパダが添えられずに地名ないしは部族名のみで表されるさまざまなケースがあることがわかる。そしてこれには複数形で用いられる場合と単数形で用いられる場合があるのであるが、次のように整理してよいであろう。

複数形で用いられる場合は、「十六大国」ないしは「普通の国」を表す場合であつて、「十六大国」の場合は【4】において考察したように、この中にさまざまな「普通の国」を包摂するからであり、「普通の国」が複数形で表されるのは、これもジャナパダと表現されることのある複数の都市や村などが含まれるからであり、これに対して地名が単数形で表される場合は、都市や村などを示すということである。